FISCO

週刊相場観測誌
Ｍａｒｋｅｔ 展　望

Weekly Market Research Report
2026年11月24日号

ひろぎん証券

今週のPOINT

国内株式市場

短期的にはAI・半導体関連株中心に売られ過ぎ感への意識強まる

今週の分析銘柄　－ FISCO Selection ８ －

ファナック【 プライム 6954】ほか

テーマ別分析

ゲーム関連株に関心高まる、IPの収益化にも期待

話題のレポート

アナリスト・レーティングと株価の関係

スクリーニング分析

株価調整も進んだ高配当利回り銘柄

リバウンド期待も強まる中でバリュー株には相対的な買い安心感

株式会社フィスコ

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

1 今週の市場見通し	国内株式市場	マーケット概観	3
		新興市場	4
	米国株式市場		5
	為替市場	米ドル/円予想レンジ	6
	債券市場	債券先物・長期国債利回り予想レンジ	6
2 マーケットを読む	今週のポイント		7
	日経平均株価		8
3 今週の分析銘柄	FISCO Selection	ミーク〈332A〉グロース	9
		ｳｪﾙﾈｽ･ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝｽﾞ〈366A〉グロース	10
		積水化学工業〈4204〉プライム	11
		ファナック〈6954〉プライム	12
		ノジマ〈7419〉プライム	13
		信越ポリマー〈7970〉プライム	14
		フジボウホールディングス〈3104〉プライム	15
		花王〈4452〉プライム	16
	読者の気になる銘柄	ソフトバンクグループ〈9984〉プライム	17
		JX 金属〈5016〉プライム	17
	テクニカル妙味銘柄	カルビー〈2229〉プライム	18
		ザ・パック〈3950〉プライム	18
4 カテゴリー考察	テーマ別分析		19
	スクリーニング分析		20
	先週の話題レポート		21
	信用需給動向		22
5 連載コラム			23

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

短期的には AI・半導体関連株中心に売られ過ぎ感への意識強まる

■週末にかけて一段安となり、4 月 13 日以来の安値水準に

先週の日経平均は前週末比 4705.70 円安（－7.7%）の 56436.65 円で取引を終了した。週初から売りが先行して 60000 円割れスタートに。前週末の米国市場で AI・半導体関連株が下落、米エヌビディア最高経営責任者（CEO）の辞任に伴い AI 市場の先行き不透明感が強まったほか、米連邦準備制度理事会（FRB）の 12 月大幅利上げ実施観測などが売り材料視され、東京市場でも関連銘柄に売りが広がった。その後、週央にかけては、60000 円割れ水準でのもみ合いとなった。エヌビディアが好決算を発表して時間外取引で上昇、AI・半導体関連株に押し目買いが強まる場面もあったが、結局米国市場でエヌビディアは伸び悩み、リバウンドは限られることとなった。

週末の日経平均は 3000 円超の下落となり、歴代 5 番目の下げ幅を記録した。AI・半導体関連株が一段安となって下げを主導、安値引けとなって、4 月 13 日以来の安値水準にまで沈んだ。前日の米国市場がほぼ全面安となったことで、リスク回避の動きが強まる格好に。史上最大規模の IPO として 19 日に株式上場した米アンソロピックだが、初値こそ好スタートとなったものの、その後に失速、出尽くし感も含めて AI 関連株の弱材料につながっていった。また、AMD など一部米半導体関連株の急落も、半導体株の下押し材料となった。

■AI・半導体関連株中心に、短期的には売られ過ぎ感も意識

先週末の米国株式市場は下落。ダウ平均は前日比 949.73 ドル安の 48147.33 ドル、ナスダックは同 1261.47 ポイント安の 22617.73 で取引を終了した。225 ナイト・セッションは日中終値比 1870 円安の 54550 円。米証券取引委員会（SEC）による会計処理の調査報道が伝わったエヌビディアが大幅続落、上場 2 日目のアンソロピックも急落して公開価格割れが意識される形に。AI・半導体関連株に幅広く売りが波及する展開となり、SOX 指数も 10%超の大幅安となった。

週末の日経平均と 13 週移動平均線との乖離率は 11.3%程度にまで広がり、売られ過ぎ感が意識される水準となっているが、週末の米国株安を受けて、その乖離は一段と広がることになろう。とりわけ、AI・半導体関連株に関しては、4 月からの AI 相場活況前の水準にまで下落しているものも多く見受けられる状況にある。下値メドとしては、年初からの価格帯別売買高が膨らんでいる 54000 円前後といえようが、ほぼこの水準に差し掛かってきており、短期的なリバウンド期待を高めたいところだ。エヌビディアの下げ止まりやアンソロピックの反発などが確認されれば、AI 関連株リバウンドへのカタリストとなろう。なお、11 月が決算月とされているヘッジファンドなどのポジション整理の動きも大方一巡したとみられる。

今週は日米のインフレ指標も注目される。国内では企業向けサービス価格指数や 11 月の東京都区部消費者物価指数（CPI）が発表される。前者は足下で着実に水準を切り上げているほか、後者も 9 月以降伸び率が高まり、11 月は一段と上昇が加速する見通しとなっている。12 月の利上げ観測を一層高める材料とされる公算が大きい。米国では FRB が重視しているとされるコア個人消費支出（PCE）価格指数が発表予定。FRB の物価目標である前年比上昇率 2%に対して、前回の 3.1%から 3.2～3.3%程度へと伸びが加速する見通し。ただ、米国に関しては、足下の株式市場の急落もあり、インフレ指標が下振れれば、12 月の利上げスキップへの見方が強まりそうだ。

■クリスマス商戦への関心も高まる方向に

米国では、26 日が感謝祭、27 日がブラックフライデー、30 日がサイバーマンデーと、クリスマス商戦が本格化してくる。直近 10 月の米小売売上高は前月から伸びが鈍化、ガソリン高の影響によって支出が抑制されている状況だ。事前の期待感は高まっていないとみられ、堅調な売上速報などが伝われば、ポジティブなインパクトにつながりやすいだろう。その際は、東京市場でも米国個人消費関連などが見直されることになるとみられる。

国内では主要企業の決算発表は少ないが、米国ではデル・テクノロジーズの決算が注目される。AI サーバーの受注好調などで、5-7 月期決算後の株価反応は良好であった。エヌビディアの好決算発表もあり、ポジティブな決算内容は期待されるものの、比較的出尽くし感は強まりやすい印象はある。そのほかディアなども決算発表予定、国内の建設機械や農業機械株に株価動向が波及しやすい。

■米国では週末にかけ年末商戦入り

今週、国内では、24 日に 11 月 S&P グローバル製造業 PMI、25 日に 10 月企業向けサービス価格指数、10 月全国百貨店売上高、27 日に 11 月東京都区部消費者物価指数が発表される。なお、23 日は勤労感謝の日で休場となる。

海外では、23 日に欧・11 月ユーロ圏 S&P グローバル製造業・サービス業 PMI、米・11 月 S&P グローバル製造業・サービス業 PMI、24 日に独・11 月 Ifo 景況感指数、米・9 月住宅価格指数、9 月 S&P ケースシラー住宅価格指数、11 月コンファレンスボード消費者信頼感指数、25 日に米・7-9 月 GDP（改定値）、10 月個人消費・個人支出・デフレーター、10 月耐久財受注、10 月新築住宅販売件数、ベージュブック、新規失業保険申請件数などが発表される。なお、米国市場は、26 日は感謝祭のため休場、27 日は短縮取引（ブラックフライデー）となる。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

AI・半導体関連株の下げ止まり待ち、個人消費関連銘柄に関心が移行か

■金利警戒と需給悪化、今後の物色動向を探る

今週の新興市場は、プライム市場での AI・半導体関連株の下げ止まりを待つ相場になりそうだ。資源高や日本の財政不安を背景としたインフレ長期化観測から日銀の早期連続利上げに対する警戒感もくすぶり、買いを見送る雰囲気が強まりそうだ。

データセンター関連のパワーエックス<485A>、人工衛星のアストロスケールホールディングス<186A>、ドローン生産の Terra Drone<278A>などこれまでの人気銘柄は、軒並み下落基調を強めている。このため、投資家の目線は、業績成長への期待が強いトライアル HD <141A>、MTG <7806>といった個人消費関連銘柄に向かう展開が予想される。ただ、プライム市場の大型銘柄の下げがきついため、信用取引の担保評価低下が推察されることから、短期投資家の買いの勢いは鈍りそうだ。

先週末に情報開示のあった銘柄では、10 月売上高の急増と広告掲載媒体の運営者数の増加が確認されたレントラックス<6045>、株主優待制度の拡充を発表した TKP<3479>などが注目される。

今週の IPO は 1 件。25 日に TOKIUM<664A>がグロース市場に上場予定となっている。経理 AI エージェント「TOKIUM」を展開する。

東証による先週の上場承認は 4 件。12 月 18 日にスタンダード市場に IG ホールディングス<686A>、グロース市場にコネクティ<688A>、GROWTH VERSE<710A>が、12 月 22 日にスタンダード市場にユニテックフーズ<711A>が上場予定となっている。11 月 20 日時点で、12 月は地方単独上場を含めて 15 社の市場デビューが予定されている。

東証グロース市場 250 指数



パワーエックス<485A>



トライアル HD<141A>



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

テクノロジー株のバリュエーション調整進み反転余地広がる/米国株式相場　今週の見通し

■先週の動き

先週の米国株は大幅反落。騰落率は、NY ダウが−8.02%、ナスダックが−10.02%、S&P500 が−8.61%。ナスダックの週間下落率 10%超えは 25 年の 4 月以来とみられる。AI・半導体関連株が下げを主導、エヌビディアが 23%の急落となったほか、SOX 指数は 17%の下落となった。週初から、米商務省が第三国のデータセンターを経由した AI 向け先端半導体への遠隔アクセスを規制する最終案を発表し、AI 関連の弱材料とされた。17 日にはエヌビディアが決算を発表、市場予想を上回る好決算を発表し一時買い優勢となったが、ファン最高経営責任者（CEO）の後任人事などに対する先行き不透明感は拭えず、すぐに失速する展開となった。19 日には史上最大規模の IPO となるアンソロピックが上場、初値こそ好スタートとなったものの、その後は伸び悩み、AI 関連株の重しとなった。また、AMD などの急落も半導体株の下押し材料となった。週末は、証券取引委員会（SEC）による会計処理の調査報道が伝わったエヌビディアが大幅続落、上場 2 日目のアンソロピックも急落して公開価格割れが意識される形となり、AI・半導体関連株に幅広く売りが波及し、同日の SOX 指数は 10%超の大幅安となった。

個別では、タイソン・フーズが市場予想を上回る決算で上昇。ターゲットも通期見通しの上方修正が好感された。パロアルト・ネットワークスは市場予想を上回る決算に加え、アプライド・コンピュートの買収も好感された。ギャップ、ホーム・デポなども、決算や配当計画などが好感された。

一方、エヌビディアは当局が国内製 AI へのアクセス強化を発表したほか、取締役会がファン CEO の復職を検討していないと伝わり、週初から売りが先行。市場予想を上回る決算が好感され一時上昇する場面もあったが、後継人事など先行き不安は拭い切れず、すぐに失速。週末は、SEC が会計慣行を巡り調査しているとの報道を受けて続落となった。アンソロピックが 19 日に新規上場。公開価格を上回る好スタートを切ったものの、その後は伸び悩み、週末にかけても売り優勢の展開となった。AMD は投資会社のハンターブルックが空売りポジション保有を明らかにして大きく売られる局面。JP モルガン、バンカメ、ウェルズ・ファーゴは、システム不具合が報じられそれぞれ売られた。ユナイテッドヘルスは、医療保険局の包括的規制案公表で規制強化が警戒されたほか、上院議員が「メディケア」に関する制度案を提示し、競争激化懸念が強まった。キャタピラーは、トランプ大統領が国外にデータセンターを建設した企業に対し莫大な税金を課すと警告し下落した。

■今週の見通し

NY ダウは 2 営業日で 2000 ドル超の下落となり、ナスダックも週末の下落で昨年末水準を割り込み、年初来の上げ（一時は 18.8%の上昇）を帳消しにしている。テクノロジー株の PER は 20 年 3 月以来の最低水準に達したとの見方もあり、AI 関連株のバリュエーション調整も相当程度進んだと考えられる。先週末は月次オプション満期日が重なって下げに拍車がかかったとみられるほか、11 月が決算月とされるヘッジファンドのポジション整理も大方一巡したと考えられ、短期的なリバウンドに転じる余地は大きいと考える。エヌビディアの下げ止まりやアンソロピックの反発などが株価反転へのカタリストとなろう。

今週は連邦準備制度理事会（FRB）が重視しているとされるコア個人消費支出（PCE）価格指数が発表予定。FRB の物価目標である前年比上昇率 2%に対して、前回の 3.1%から 3.2～3.3%程度へと伸びが加速する見通しとなっている。ただ、足下での株式市場の急落もあって、仮にインフレ指標が下振れれば、12 月の利上げ見送り観測は強まる可能性がある。その場合、中期的なインフレ進行懸念にはつながるが、株式市場にとっては短期的な安心材料とされよう。また、26 日は感謝祭、27 日はブラックフライデー、30 日はサイバーマンデーと、クリスマス商戦が本格化を迎える。ガソリン高の影響などからも事前の期待感は高まっていないとみられ、想定以上に好調な売上速報などが伝われば、プラスインパクトは強まりやすいだろう。ちなみに、先週決算を発表したウォルマート、ターゲット、ギャップなどは決算を受け、株価は上昇する展開になっている。決算では、デル・テクノロジーズが注目される公算。こちらは、AI サーバーの受注好調などで、5-7 月期決算発表後の株価はポジティブであった。出尽くし感が強まりやすい印象で留意点となる。

経済指標は、23 日に 11 月 S&P グローバル製造業・サービス業 PMI、24 日に 9 月住宅価格指数、9 月 S&P ケースシラー住宅価格指数、11 月コンファレンスボード消費者信頼感指数、25 日に 7-9 月 GDP（改定値）、10 月個人消費・個人支出・デフレーター、10 月耐久財受注、10 月新築住宅販売件数、ベージュブック、新規失業保険申請件数が発表される。なお、26 日は感謝祭で休場、27 日は短縮取引（ブラックフライデー）となる。

主な決算発表は、23 日にヒューレット・パッカード・エンタープライズ、24 日にアナログ・デバイシズ、ベスト・バイ、デル・テクノロジーズ、メドトロニック、HP、25 日にディアなどが予定されている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

為替市場

ドル・円は伸び悩みか。米国内の物価上昇圧力や個人消費の底堅さが顕著になり、米連邦準備制度理事会（FRB）の引き締めペースが速まるとの期待が高まっている。ただ、160 円以上の水準では為替介入への警戒感から、引き続き上値は重そうだ。

今月発表された米国のインフレ指標では物価上昇圧力の根強さが示されたほか、FRB 当局者からも金融引き締めに前向きな見解が相次いでいる。これを受け、12 月と来年 1 月の利上げ観測が強まり、米金利高・ドル高に振れやすい。

10 月 27-28 日に開催された米連邦公開市場委員会（FOMC）の議事要旨によると、今後数カ月内に追加利上げが適切との見解でほぼ一致したことが分かった。

今後発表予定の経済指標では、米消費者信頼感指数が上昇トレンドを形成できるか注目される。直近の米小売売上高は前月比＋0.2%と市場予想に沿った伸びを確保し、個人消費の底堅さが示された。米コア PCE 価格指数は、前月比は横ばいとなる一方、前年比ではやや加速する見通しで、引き締め観測の支援要因となろう。

ただ、日本の「防衛ライン」として意識される 160 円に差し掛かり、為替介入への警戒感は強い。日米財務相は 7 月から 8 月にかけての協調的な為替介入の実績を公表しており、日米当局による円安牽制がドル・円の上値を抑える可能性がある。

米ドル・円 予想レンジ	155.00 円 ～ 162.00 円

また、エヌビディア幹部のスキャンダルによる経営を巡る混乱や人工知能（AI）関連投資への懸念から、AI 開発は不透明感を強めており、世界的な株安に波及している。リスク回避的な円買いが主要通貨を押し下げる場面も続くだろう。

【米・11 月消費者信頼感指数】（24 日発表予定）

24 日発表の米 11 月消費者信頼感指数は 92.1 と、前回の 91.7 を上回る見通し。10 月は 4 カ月ぶりに上昇しており、さらに強い内容となれば、米景気の底堅さから引き締め期待のドル買いにつながりそうだ。

【米・10 月コア PCE 価格指数】（25 日発表予定）

25 日発表の米 10 月コア PCE 価格指数は、前月比は＋0.3%と 9 月（＋0.3%）から横ばいとなる一方、前年比では＋3.2%と 9 月（＋3.1%）からやや加速が予想される。インフレ圧力継続なら、FRB の追加利上げ観測を支えドル買い材料となる。

債券市場

■先週の動き

先週（11 月 16 日－20 日）の債券市場で長期債利回りは大幅に低下した。前半は米長期金利の高止まりや 18 日の 20 年債入札の弱い結果が重荷となり、利回りは 2.88%台でもみ合った。後半は、19 日にかけて米長期金利が 5.1%近辺から 5.0%近辺へ低下したことや、リスク回避の動きが広がったことから買いが優勢となった。20 日朝（国内債の取引前）に発表された 10 月全国 CPI は、コア、総合、コアコア 3 指標とも予想を下回り、日銀の追加利上げ観測の一段の強まりは意識されにくくなった。同日の日経平均株価が 3007 円安（56436.65 円）と急落したことも、安全資産としての債券買いを促した。

10 年債利回りは、週前半は 2.88%台で推移。2.884%近辺で 16 日の取引を開始し、7-9 月期 GDP の下振れと、高田日銀審議委員の機動的な利上げを求める講演が交錯して、2.886%近辺で引けた。17 日は米ハイテク株安を受けた買いが先行したものの、米長期金利の高止まりで伸び悩み、2.883%近辺で引けた。18 日は 20 年債入札（テール 29 銭、応札倍率 3.64 倍）が弱い結果と受け止められ、2.841%近辺まで低下した後に戻して 2.876%近辺で引けた。19 日は米長期金利の低下を受けて 2.820%近辺まで低下し、2.827%近辺で引けた。20 日は全国 CPI の下振れと日経平均株価の急落を受け、2.770%近辺で取引を開始して 2.751%近辺まで低下し、同水準でこの週の取引を終えた。

債券先物 12 月限は上昇。126 円 11 銭で 16 日の取引を開始し、126 円 25 銭で引けた。17 日は米長期金利の高止まりで買いが続かず、126 円 44 銭から 126 円 20 銭まで押し戻されて 126 円 24 銭で引けた。18 日は 126 円 27 銭で取引を開始し、20 年債入札を前に 126 円 58 銭まで上昇したが、入札結果が弱いと伝わって上げ幅を縮め、126 円 34 銭で引けた。19 日は 126 円 74 銭まで上昇して 126 円 65 銭で引け、20 日は全国 CPI の下振れと株安を背景に 127 円 04 銭まで上昇し、127 円 00 銭でこの週の取引を終えた。

債券先物予想レンジ	126.00 円 ～ 127.80 円
長期国債利回り予想レンジ	2.650 % ～ 2.880 %

■今週の見通し

今週（11 月 23 日－27 日）の債券市場で長期金利は、先週の大幅低下を受け、低位でのもみ合いとなる見込み。23 日は勤労感謝の日で国内市場が休場、取引は 24 日からとなる。24 日朝にはウィリアムズ NY 連銀総裁の講演が予定され、追加利上げに前向きな見解が示されれば、週初の売り材料となる。一方、先週末の日経平均の急落は、AI 関連株への不安再燃を示しており、株式市場が落ち着かなければ、安全資産としての債券買いが続きやすい。ドル・円は 160 円に迫っており、為替介入への警戒も強く、為替の急変動は債券市場の波乱要因となる。

国内では、今週の日銀関係者の発言に関心が集まる。26 日には、機動的な利上げを求めた高田審議委員に続き、田村審議委員が発言する予定。25 日には 10 月の企業向けサービス価格指数と日銀の「消費者物価のコア指標」が公表される。27 日発表予定の 11 月東京都区部 CPI は、前回 10 月は生鮮食品を除くコアが前年比＋2.6%と高い伸びを維持しており、上振れれば 12 月利上げ観測が強まって売り材料、下振れれば買い材料となる。

需給面では、25 日の 40 年債入札に注意が必要だ。米国では、25 日に 10 月 PCE デフレーターと 7-9 月期 GDP 改定値が公表される。内容次第では、米国の大幅利上げ観測が強まり、米長期金利の上昇を通じて国内債の売り材料となる。

債券先物 12 月限は主に 126 円台前半から 127 円台後半で推移か。株安・米金利低下という買い材料と、日銀の利上げ観測や超長期債の需給懸念という売り材料が拮抗する。株式市場が落ち着けば 127 円台前半では戻り売りが出やすい一方、リスク回避が続けば 127 円台後半を試す展開も想定される。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

AI・半導体関連株の短期リバウンドに関心向かう公算

先週の日経平均は大幅反落。週初からAI・半導体関連株を中心に売りが先行、エヌビディア CEO の辞任も重なり、AI 市場の先行き不透明感が一段と増す形になった。エヌビディアの好決算が一時関連銘柄の刺激材料となったが、リバウンドの動きは限られ、週末は3000 円超安と過去5 番目の下げ幅を記録。エヌビディアの続落、史上最大規模の IPO となったアンソロピックが初値から伸び悩む動きとなったことが弱材料視された。業種別では全セクターが下落、とりわけ、非鉄金属が下落率トップに。AI関連株安の流れに加えて、銅をはじめとする金属価格の下落が嫌気された。ガラス・土石、銀行、卸売りなども下落率上位。

個別では、市場予想上回る上方修正や自社株買いを発表したクレセゾンが上昇、ニトリ HD、朝日インテック、富士ダイス、損保各社なども決算内容が評価される。エアウォーターは遅延していた決算発表であく抜け感優勢。ピジョンは米ベビー用品企業の買収発表が評価され、キッセイ薬品はパートナー企業の良好な医薬品試験結果が期待材料に。米国でサイバーセキュリティ関連が上昇し、トレンドなど関連銘柄も週後半に強い動き。半面、減損計上による赤字見通しでツバキナカシマが急落。JT もロシア事業連結除外による今期最終益の赤字転落を発表し下落。THK やナブテスコなどの FA 関連銘柄も決算内容を嫌気。ヤーマンは業績低進捗や株主優待制度の内容変更が嫌気される。楽天証券に不正アクセスで顧客情報漏洩と発表した楽天銀行も大幅安となる。

先週末にかけて米国株式市場は大幅続落、SOX 指数は10%超の急落となっている。東京市場祝日の 23 日に様相が変化する可能性はあるものの、現時点では連休明けのさらなる下値模索が見込まれる。ただ、日米ともに、移動平均線との乖離率などから短期的な下げ過ぎ感が意識される。ソフトバンクGや米ナスダック指数は年初来の上げを帳消しにしており、多くの AI・半導体関連銘柄は相当程度バリュエーション調整が進んだと考えられる。米エヌビディアやアンソロピックの株価反転などが確認できれば、短期的なリバウンド余地は大きくなる公算もあろう。足元では銅など非鉄金属市況の下落も関連株の重しとなっているが、基本的にはAI 関連株の動向にリンクするとみられる。

目先のリバウンドの際には AI・半導体関連株が主導する可能性は高いものの、同関連株の先行き不透明感を強く意識する投資家においては、バリュー株に安心感を強める動きも想定されよう。足元で AI 関連株に連れ安し、利回り水準が高まっている銘柄も多いとみられる。国内の経済指標では企業向けサービス価格指数や東京都区部消費者物価指数などのインフレ指標が注目される。ともに伸びの加速化が想定されており、日銀の 12 月利上げ観測再燃から、銀行株の見直しなども注目される。国内関連銘柄への影響が見込まれる米国企業の決算ではディアが予定されている。建設機械や農業機械などの関連株にストレートに影響を与えよう。米クリスマス商戦の出足なども注目しておきたい。

先週動いた銘柄・セクター（東証プライム）

上昇率上位銘柄				下落率上位銘柄				業種別騰落率	
コード	銘柄	終値（円）	騰落率（%）	コード	銘柄	終値（円）	騰落率（%）	上位セクター	騰落率（%）
7522	ワタミ	1,280.0	26.98	6464	ツバキ・ナカシマ	166.0	-40.07	空運業	-0.33
6238	フリュー	1,725.0	14.62	6630	ヤーマン	499.0	-32.20	小売業	-0.44
7747	朝日インテック	4,348.0	14.09	4392	ＦＩＧ	521.0	-29.50	医薬品	-0.50
7630	壱番屋	1,213.0	13.36	7071	アンビスホールディングス	261.0	-28.69	その他製品	-1.14
4547	キッセイ薬品工業	4,370.0	12.48	1515	日鉄鉱業	2,089.0	-28.02	精密機器	-1.52
6167	冨士ダイス	1,091.0	11.33	5838	楽天銀行	3,915.0	-27.87	水産・農林業	-1.61
4919	ミルボン	3,695.0	11.30	5706	三井金属	1,120.0	-27.18	倉庫・運輸関連業	-2.65
3962	チェンジホールディングス	833.0	10.92	5016	ＪＸ金属	1,820.5	-26.70	下位セクター	騰落率（%）
8253	クレディセゾン	4,606.0	10.80	6266	タツモ	2,082.0	-26.46	非鉄金属	-21.56
3963	シンクロ・フード	276.0	9.09	9247	ＴＲＥホールディングス	1,309.0	-26.09	ガラス・土石製品	-11.19
9843	ニトリホールディングス	3,655.0	8.62	5074	テスホールディングス	326.0	-25.74	銀行業	-10.98
2810	ハウス食品グループ本社	4,854.0	7.75	5713	住友金属鉱山	5,368.0	-25.37	卸売業	-10.09
4527	ロート製薬	2,631.5	7.61	5801	古河電気工業	1,620.0	-25.26	鉱業	-9.58
8179	ロイヤルホールディングス	1,640.0	6.98	6268	ナブテスコ	3,105.0	-25.16	電気機器	-9.15
9831	ヤマダホールディングス	808.6	6.86	4461	第一工業製薬	7,340.0	-24.17	証券業	-9.08

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

下値を探る…ボリンジャー―2σ割れで下値拡張へ

■値動きの荒い相場が続きそう

先週（11 月 16-20 日）の日経平均株価は 2 週ぶりに下落した。1 週間の下げ幅は 4705.70 円（先々週 3707.58 円高）だった。

先週の日経平均は下げ足を速めた。週末 20 日は 6 日の直近安値を下回り、終値では 4 月 9 日以来の低水準となる 56436.65 円（前日比 3007.56 円安）で安値引けした。

今週は下値を模索する展開が予想される。ローソク足が日足と週足ともに下ヒゲのない「陰の大引け坊主」を描いたほか、パラボリックが売りサインを点灯。終値の 5 日線割れが先週末 20 日まで続いたこともあり、短期的な下落圧力の強さが窺える。先週末終値は 52 週移動平均線を下回ったほか、52 週線上方を走る 26 週線が下降角度を増しており、中長期ベースの地合い悪化リスクが警戒される。

先週末終値が 25 日線を上回る銘柄は、日経平均を構成する 225 銘柄のうち 63 銘柄（先々週末 128 銘柄）、プライム市場全銘柄では 23%（先々週末 50%）と減少し、投資家の含み損益悪化によるリスク負担能力低下が推察される。25 日線との下方乖離率は先週末終値で 8.47%に拡大して潜在的なリバウンド圧力増大が予想される。しかし、週足一目均衡表が三役逆転を形成するなど大勢では売り手優位が鮮明なチャート形状のため、自律反発には弾みが付きにくいだろう。

ボリンジャーバンド（25 日ベース）では先週末終値が-2σを割り込んで下値拡張を示唆。直近 3 週末の 1σの値幅は 3324.06 円→2912.75 円→2444.49 円と縮小しているが、絶対額が大きいため、値動きの荒い相場が今週も続きそうだ。

上値では、週足一目均衡表の雲上限（今週 59843.43 円）から節目の 6 万円を挟んで 52 週線（先週末 60293.88 円）が抵抗帯として作用しよう。下値では、225 先物の大阪夜間取引で 21 日早朝に付けた安値 54400 円前後が支持線と目される。同水準を割り込むと 52 週線比 15%安（先週末 51249.80 円）や、7 月の史上高値への起点となった 3 月 31 日安値 50558.91 円まで下押しするリスクが意識されよう。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

ミーク〈332A〉グロース

国内4キャリア対応で競争力強化、収益性も改善

■IoT向け通信サービスが成長をけん引

格安スマートフォン事業者などに通信基盤を提供するMVNEサービスと、法人向けにIoT/DXプラットフォームサービスを展開。MVNEサービスで安定収益を確保する一方、IoT/DXプラットフォームサービスでは監視カメラやIP無線機向けなどの通信需要を取り込み、回線数は9月末時点で前年同期比22.0%増の37.7万回線に拡大した。楽天モバイルへの対応により国内4キャリアの通信回線を提供できる体制を整えており、競争力の一段の向上が期待される。

■収益性の改善が進むなか、評価不足の解消に期待

27年3月期上期は売上高が前年同期比9.2%増の37.70億円、営業利益が同17.7%増の7.82億円となった。IoT/DXプラットフォームサービスの売上構成比上昇に伴い、通信帯域の利用効率が改善し、営業利益率は20.8%に上昇した。通期営業利益計画14.30億円に対する進捗率は54.7%と順調で、予想PER12倍前後の水準には値ごろ感があろう。また、機関投資家との対話機会を拡充する方針を示しており、認知度向上や株式の流動性改善にも期待したい。株価は1000円前後で下げ渋っており、まずは25日移動平均線の突破を反転の足掛かりとしたいところ。目標株価は1200円とする。

売買単位	100 株
11/20 終値	978 円
目標株価	1200 円
業種	情報・通信

★リスク要因

株式の流動性の低さや通信サービスにおける競争激化など。

332A :日足



25日移動平均線の突破を反転の足掛かりとしたいところ。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3単	5,976	-13.2%	816	816	12.9%	535	5,504.12
2024/3単	5,375	-10.1%	785	784	-3.9%	542	5,584.00
2025/3単	5,974	11.1%	929	910	16.1%	633	64.78
2026/3連	7,150	-	1,296	1,305	-	879	76.79
2027/3連予	7,700	7.7%	1,430	1,440	10.3%	970	87.22

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

ウェルネス・コミュニケーションズ〈366A〉グロース
健康管理クラウドが成長、好業績を背景に再評価へ

■健康管理クラウドの成長と事業領域拡大に期待

企業向けの健康管理クラウド「Growbase」と、健康診断の予約・結果管理などを支援する健診ソリューションを展開。主力の Growbase では大企業への導入実績を強みに、中堅・中小企業への顧客基盤拡大を進めている。9 月末時点のクラウド事業の契約企業グループ数は前年同期比 27%増の 385 グループに拡大。直販顧客の価格改定の合意率は 90.5%に達し、顧客単価の上昇も進んでいる。9 月にはメンタルヘルス管理を支援する「Growbase Mentally」の提供を開始したほか、ティーペックへの資本参画やストレスチェック事業の取得を通じた事業領域拡大にも期待したい。

■上期大幅増益、見直し買いの進展に期待

27 年 3 月期上期は売上高が 89.98 億円、営業利益が 8.29 億円となった。クラウド事業の成長や子会社化したあしたのチームの業績寄与に加え、価格改定や業務効率化の進展が収益を押し上げた。通期は売上高 175.00 億円、営業利益 16.00 億円を計画。年間 40 円の配当を予定していることも評価材料となろう。株価は情報漏えいの発表後に調整色を強め、主要移動平均線を下回っている。ただ、相場全体の地合い悪化も影響しているとみられ、好業績や株主還元を背景に見直し買いが進む余地はあろう。まずは下値固めを確認したいところ。目標株価は年初来高値水準の 1250 円とする。

売買単位	100 株
11/20 終値	998 円
目標株価	1250 円
業種	サービス

★リスク要因

M&A に伴う事業統合の遅れなど。

366A:日足



まずは下値固めを確認したいところ。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3単	10,748	15.7%	824	811	23.4%	560	102.83
2024/3単	13,266	23.4%	967	955	17.8%	680	124.88
2025/3単	14,057	6.0%	1,109	1,102	15.4%	776	142.47
2026/3連	14,778	-	1,186	1,164	-	822	68.13
2027/3連予	17,500	18.4%	1,600	1,555	33.6%	1,150	92.33

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

積水化学工業〈4204〉プライム

ペロブスカイト太陽電池量産へ、上期営業利益は 33.0%増

■住宅や高機能プラスチックス事業など展開

「セキスイハイム」ブランドで展開する住宅事業が売上高の40%を占め、半導体や自動車向けなどの高機能プラスチックス事業が 34%、塩ビ管材などの環境・ライフライン事業が 18%、臨床検査薬や医薬品原薬などのメディカル事業が7%などとなっている(26年3月期)。このほか、「ネクストフロンティア」としてフィルム型ペロブスカイト太陽電池に注力しており、今期から納品を開始した。今後、堺工場で 10 万キロワット級の量産を開始し、28 年 3 月期上期から製品を本格供給。さらに、約 2700 億円を投じ、1GW 供給体制を構築し、売上高 1000 億円規模を目指す方針。

■価格転嫁など奏功

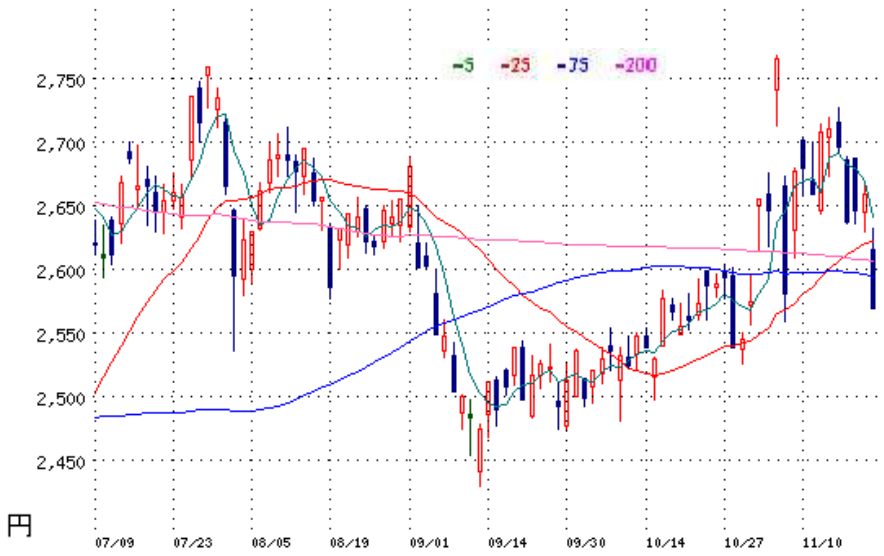
27 年 3 月期上期売上高は 7017.06 億円(前年同期比 11.4%増)、営業利益は 604.39 億円(同 33.0%増)。原料・部材の高騰や調達制約に対し価格転嫁が奏功し、売上高、営業利益とも過去最高となった。27 年 3 月期通期売上高は 1 兆 4910 億円(前期比13.9%増)営業利益は1230億円(同15.5%増)予想。上期決算発表時(10 月 30 日)に、売上高を約6%、営業利益を約7%上方修正した。株価は堅調だ。大台 3000 円を目標株価としたい。

売買単位	100 株
10/20 終値	2569 円
目標株価	3000 円
業種	化学

★リスク要因

原材料価格の一段の上昇など。

4204:日足



全体相場波乱の中で底堅く推移。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	1,242,521	7.3%	91,666	104,241	7.5%	69,263	159.19
2024/3連	1,256,538	1.1%	94,399	105,921	1.6%	77,930	183.48
2025/3連	1,297,754	3.3%	107,951	110,958	4.8%	81,925	195.93
2026/3連	1,309,281	0.9%	106,477	117,215	5.6%	75,174	182.70
2027/3連予	1,491,000	13.9%	123,000	122,000	4.1%	76,000	188.17

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

ファナック〈6954〉プライム

FA・ロボット・ロボマシンを展開、上期営業利益は 35.7%増

■CNCとサーボが基本技術

数値制御で工作機械の動作を制御する CNC や速度と位置を制御するサーボなどの「FA」が売上高の 24%を占め、CNC とサーボの基本技術を応用した「ロボット」が 44%、小型切削加工機(ロボドリル)や電動射出成形機(ロボショット)などの「ロボマシン」が 15%、保守整備など「サービス」が 17%となっている(26 年 3 月期)。CNC は 1956 年に日本で民間初の開発に成功し、現在では世界中の工作機械メーカーによって工作機械に組み込まれ、世界シェアはトップクラス(同社推計)。また、ロボット、ロボドリル、ロボショットも世界シェアトップクラス(同)を誇る。

■AI データセンターや半導体関連向けなど好調

27 年 3 月期上期売上高は 4737.08 億円(前年同期比 16.2%増)、営業利益は 1166.62 億円(同 35.7%増)。AI データセンター、半導体関連、人型ロボットの部品加工、航空宇宙、社会インフラ向けなどが総じて好調。27 年 3 月期通期売上高は 1 兆 137 億円(前期比 18.2%増)、営業利益は 2407 億円(同 31.0%増)予想。上期決算発表時に、売上高を約 7%、営業利益を 10%、前回予想からそれぞれ引き上げた。株価は調整局面だが業績は好調だ。まずは大台 7000 円回復を目標としたい。

売買単位	100 株
11/20 終値	5047 円
目標株価	7000 円
業種	電気機器

★リスク要因

円相場の急激・大幅な変動など。



6954:日足

株価は年初来安値水準。そろそろ買い場探しのタイミングか。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	851,956	16.2%	191,359	231,327	8.4%	170,587	892.75
2024/3連	795,274	-6.7%	141,919	181,755	-21.4%	133,159	140.23
2025/3連	797,129	0.2%	158,846	196,738	8.2%	147,557	157.31
2026/3連	857,831	7.6%	183,763	227,485	15.6%	166,543	178.47
2027/3連予	1,013,700	18.2%	240,700	308,800	35.7%	228,300	246.01

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

ノジマ<7419> プライム

好調な既存事業とM&Aによる成長余地に対して株価に割安感

■今期中間期は過去最高の営業利益

首都圏を中心にデジタル家電専門店を展開。携帯電話販売代理店やインターネット接続サービス、パソコンの製造・販売なども手掛ける。2027年3月期中間期の売上高は5,037億円(前年同期比8.9%増)、営業利益は325億円(同17.6%増)、純利益は335億円(同72.9%増)となった。エアコンなどの季節家電の販売が好調だったほか、キャリアショップ運営事業やVAIOを中心とするプロダクト事業も伸長。投資有価証券売却益の計上も純利益を押し上げた。通期の売上高予想を1兆600億円(前期比7.9%増)、営業利益予想を650億円(同11.9%増)に上方修正した。

■M&Aによる成長加速と収益性のさらなる向上に期待

顧客ニーズに応じたコンサルティング販売を強みとし、積極的なM&Aを通じて事業領域を拡大している。2027年3月期中には日立グローバルライフソリューションズの家電事業を承継する新会社の子会社化を予定。通期業績予想には同事業の連結による影響が織り込まれていない。会社予想EPS184.12円に、過去のPER推移や同業他社の株価評価、事業成長性を踏まえて算定した適正PER12倍を適用すると、理論株価は2,200円を超える。一過性利益の影響を考慮し、目標株価は1,800円とする。

売買単位	100 株
11/20 終値	1341 円
目標株価	1800 円
業種	小売業

★リスク要因

個人消費の低迷、家電販売競争の激化など。

7419:日足

長期では堅調な上昇トレンドを継続。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	626,181	10.8%	33,572	36,246	1.0%	23,315	238.83
2024/3連	761,301	21.6%	30,560	32,937	-9.1%	19,979	203.67
2025/3連	853,427	12.1%	48,371	51,197	55.4%	32,292	334.97
2026/3連	982,804	15.2%	58,071	62,295	21.7%	38,931	134.61
2027/3連予	1,060,000	7.9%	65,000	83,000	33.2%	54,000	184.12

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

信越ポリマー〈7970〉プライム

信越化学グループの樹脂加工メーカー、上期営業利益は 31.6%増

■半導体容器などで高いシェア

1960 年に信越化学工業グループの樹脂加工メーカーとして発足。シリコーンゴムやプラスチックを素材とした高付加価値製品を提供する。現在の事業は、OA 機器用部品や半導体・医療関連製品を手掛ける「精密成形品」が売上高の 52%を占め、車載成形品やバッテリー・燃料電池関連製品の「電子デバイス」が 22%、包装材料や耐熱薄膜フィルム、導電性ポリマーなどの「住環境・生活資材」が 19%などとなっている(26 年 3 月期)。海外売上高比率は 55%(同)。半導体関連では、半導体の搬送・包装資材を手掛けており、出荷容器「FOSB」と工程内容器「FOUP」で高い世界シェアを誇り、足下の業績を牽引している。

■AI サーバー向け製品なども好調

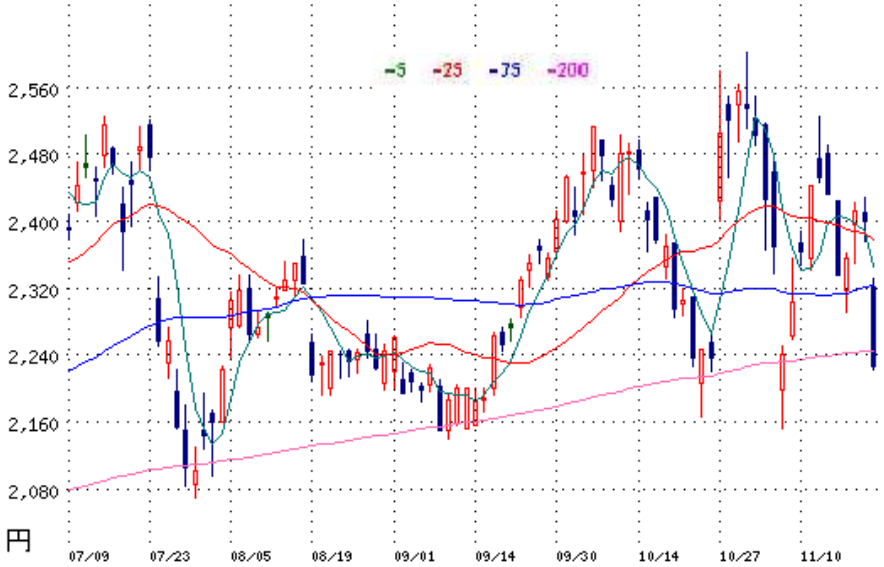
27 年 3 月期上期売上高は 643.25 億円(前年同期比 14.4%増)、営業利益は 93.54 億円(同 31.6%増)。半導体容器が伸びたほか、AI サーバー向け製品などが好調で収益寄与した。27 年 3 月期通期売上高は 1270 億円(前期比 10.3%増)、営業利益は 182 億円(同 29.6%増)予想。上期決算発表時に、売上高を 5%、営業利益を 13%ほど、前回予想からそれぞれ引き上げた。株価は底堅く推移している。大台 3000 円を目標株価としたい。

売買単位	100 株
11/20	2226 円
目標株価	3000 円
業種	化学

★リスク要因

AI インフラの規制強化など。

7970:日足



200 日線近辺を支えに下値の堅い展開。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	108,278	16.9%	12,749	12,986	28.2%	8,529	105.68
2024/3連	104,379	-3.6%	11,050	11,530	-11.2%	8,674	107.31
2025/3連	110,582	5.9%	13,271	13,218	14.6%	9,430	116.99
2026/3連	115,116	4.1%	14,040	14,008	6.0%	9,899	123.15
2027/3連予	127,000	10.3%	18,200	18,000	28.5%	11,800	146.82

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

フジボウホールディングス〈3104〉 プライム

AI 半導体向け研磨材が好調、通期上方修正と増配を発表

■上期は研磨材と化学品が牽引し大幅増益

紡績事業から研磨材と化学工業品を柱とする事業構成に転換し、10 月に社名をフジボウホールディングスへ変更した。2027 年 3 月期上期は売上高273.54 億円(前年同期比21.4%増)、営業利益48.66 億円(同29.0%増)で着地した。研磨材はAI 向け先端半導体の需要増で CMP 用途が好調、化学工業品は電子材料市場の拡大や農薬市況の回復により、堅調に推移した。通期は売上高554 億円(前期比20.6%増)、営業利益105 億円(同28.9%増)に上方修正し、中計で掲げた営業利益 100 億円を初年度で超える見込み。

■増配で還元姿勢を強化

株価は 7 月に年初来高値 4,625 円をつけた後は調整に転じ、11 月 6 日には年初来安値 2,463 円まで下落し。その後はいったん戻したものの、足元では再び下落している。中計「進化 26-30」では 2030 年度に売上高 650 億円、営業利益 130 億円を目標に掲げ、研磨材を中心に 5 年間で 480 億円を投資する計画で、2028 年度下期には研磨パッドの新棟が稼働する予定。株主還元では配当性向 40%を目標とし、今期の年間配当予想を前回予想から 3 円上乗せして 87 円とした。目先の目標株価は 3,000 円までの回復に期待する。

売買単位	100 株
11/20 終値	2644 円
目標株価	3000 円
業種	ガラス土石

★リスク要因

半導体市況の悪化や原燃料価格の高騰など。



3104:日足

安値圏から反発も上値は重い。

(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2023/3連	37,669	4.9%	4,872	5,041	-16.6%	3,399	296.54
2024/3連	36,108	-4.1%	2,818	3,276	-35.0%	2,117	185.21
2025/3連	42,912	18.8%	6,476	6,675	103.8%	4,477	405.82
2026/3連	45,929	7.0%	8,143	8,356	25.2%	5,612	165.94
2027/3連予	55,400	20.6%	10,500	10,700	28.1%	7,200	213.49

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

花王〈4452〉 プライム

3Q 累計は営業利益 28%増、高付加価値化で稼ぐ力が向上

■3Q累計は営業利益28%増で着地

トイレタリー国内首位で、化粧品やケミカル事業も手掛ける。2026 年 12 月期第 3 四半期累計は売上高 1 兆 3,193.05 億円(前年同期比 7.1%増)、営業利益 1,465.39 億円(同 28.1%増)で着地した。高付加価値商品の価格改定が浸透し、日本のトイレタリー内シェアも上昇。化粧品は「Curél」「KATE」などが伸びて営業利益が 3.4 倍、ケミカルも電子材料の伸長で増益となった。第 1 四半期の土地売却益 115 億円も寄与。通期計画は売上高 1 兆 8,000 億円(前期比 6.6%増)、営業利益 1,900 億円(前期比 16.2%増)を据え置いている。

■K27 達成へ海外事業の収益基盤を強化

株価は 5 月に年初来安値2,880 円をつけた後は上昇基調が続き、決算翌日の 11 月 6 日に 3,800 円まで売られたものの、17 日には年初来高値 4,101 円を更新した。中期経営計画「K27」では

売買単位	100 株
11/20 終値	3956 円
目標株価	4300 円
業種	化学

2027 年 12 月期に過去最高の 2,117 億円を超える営業利益を目指し、第 4 四半期には海外事業の収益基盤強化策を実施する。ROICも 11.2%まで向上し、資本効率の改善が進む。株主還元では株式分割考慮前で年間 156 円と、前期比 2 円の増配を計画。堅調な業績を横目に、目先の目標株価は節目の 4,300 円とする。

★リスク要因

原材料高の影響拡大や海外の改革費用など。

4452:日足

5 月以降上昇基調を維持して年初来高値を更新。



(百万円)

会計期	売上高	前期比	営業利益	経常利益	前期比	当期利益	1株益(円)
2022/12連I	1,551,059	9.3%	110,071	115,848	-22.8%	86,038	183.28
2023/12連I	1,532,579	-1.2%	60,035	63,842	-44.9%	43,870	94.37
2024/12連I	1,628,448	6.3%	146,644	151,024	136.6%	107,767	231.94
2025/12連I	1,688,633	3.7%	164,069	169,846	12.5%	120,081	260.30
2026/12連I予	1,800,000	6.6%	190,000	193,000	13.6%	135,000	149.21

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

ソフトバンクグループ　プライム〈9984〉／先週末は一時 25 年 8 月以来の 3000 円割れ

AI 関連株安の流れに押されて先週は大幅安、週末にかけ一段安となり、集権下落率は 14%強の水準となっている。19 日の米国市場でアンソロピックが新規上場、初値は公開価格 83 ドルに対して 111.50 ドルとなったものの、その後は伸び悩んで 97.17 ドルで取引を終了する形となり、同社など AI 関連株の弱材料とされる。今後控えるオープン AI の上場に対する過度な期待も後退する状況とみられる。

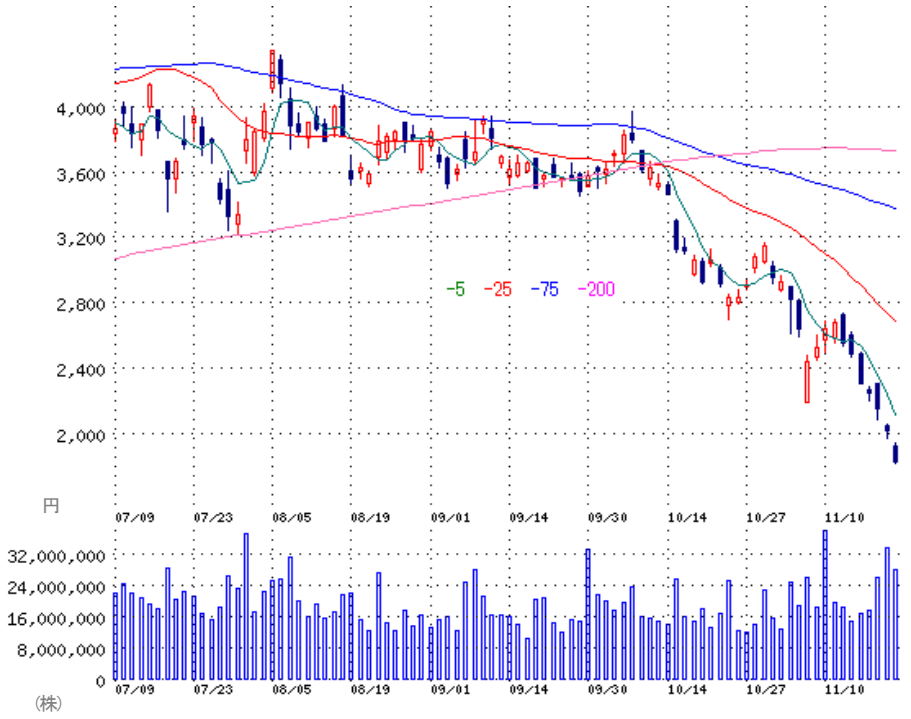
先週末の米国市場でも AI・半導体関連株の下げが続き、英アームも 14%超の大幅安となっている。週初は一段の下押しが想定される。ただ、先週末は 25 年 8 月以来の 3000 円割れ、AI 相場の本格化前である 24 年 7 月の高値水準も割り込んでいる。さすがに短期的な売られ過ぎ感は強いと感じられる。目先、アンソロピックの株価反発などが見られれば、リバウンド狙いの動きが活発化する余地は大きい。



JX 金属　プライム〈5016〉／AI 関連株下落に加えて足元では銅市況の下落も重しに

先週末にかけて 7 日続落、この間の下落率は 32%の水準となり、5 月の年初来高値からは 69%の下落となっている。AI 関連株の代表銘柄として、関連株安に引きずられる展開が続いていたが、足元では貴金属市況の下落も重しとなっている。とりわけ、18 日の商品相場では LME 銅価格が 5%の急落となり、翌日は同社をはじめ非鉄大手が総じて下落率の上位に顔を揃える展開になった。銅に関しては、米中間選挙を受けた AI 投資拡大への過度な拡大期待の後退に加え、米国の金融引き締め観測なども需要見通しへの警戒感につながっているようだ。

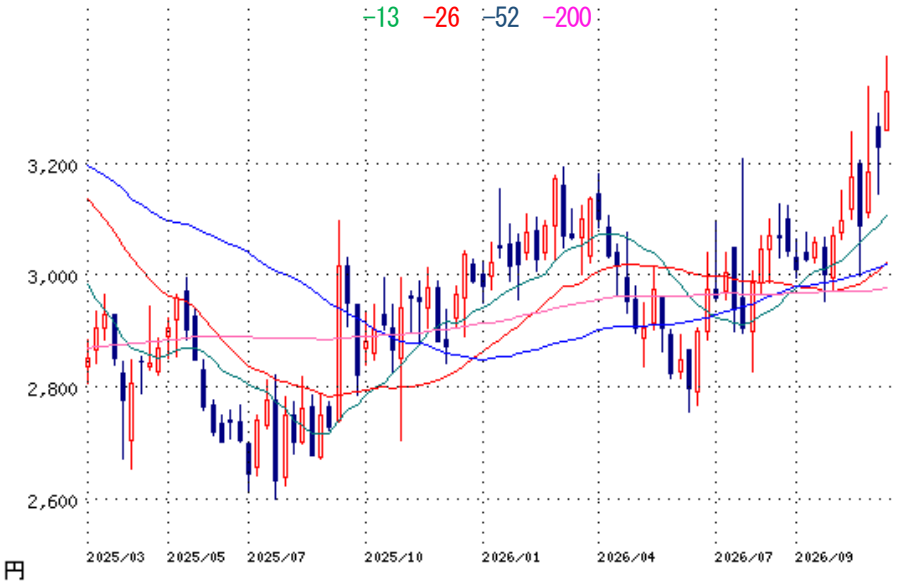
先週末は米 AI 関連株の下落基調が一段と強まったほか、銅価格もさらに下値模索の動きを強めている。突っ込み警戒感は強い状況だが、目先のリバウンドには、AI 関連株の動向のほか、銅価格にも目配りが必要となる。相対的に手掛けにくさは残ろう。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

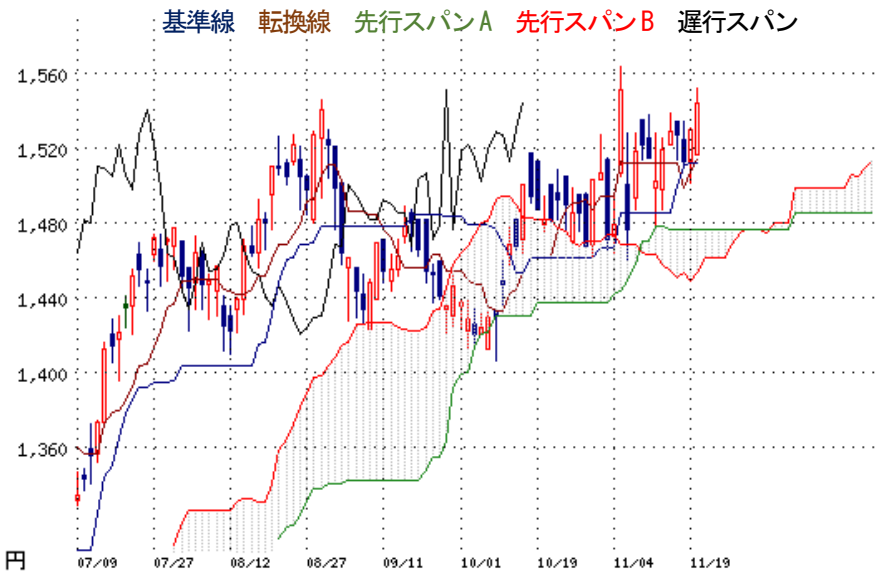
カルビー　東証プライム〈2229〉

週足ベースのローソク足。6月3週安値2756円を直近ボトムに上昇トレンドを描いてきた。先週は3週連続で下値が切り上がり、下ヒゲのない「陽の寄り付き坊主」で水準訂正圧力の強さを窺わせた。株価下方では上向きの52週移動平均線を26週線が上抜いてゴールデンクロスを示現して長期上昇局面入りを示唆している。抵抗線と目される2024年4月の戻り高値3637円を抜いて上昇基調をさらに強める展開が予想される。



ザ・パック　東証プライム〈3950〉

日足ベースの一目均衡表。11月18日に転換線の基準線割れで三役好転が崩れたものの、週末20日に転換線が基準線を上抜いて三役好転の買い手優位の形状に戻った。基準線が上昇基調にあるほか、転換線が上向いており、強気相場の継続が予想される。先週末高値から12円上には11月6日に付けた上場来高値1564円（株式分割反映後）があり、同水準突破とその後の高値追いを期待できよう。



本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

テーマ別分析：ゲーム関連株に関心高まる、IP の収益化にも期待

■大型タイトルの発売や年末商戦を機にゲーム関連株に再評価の動き

米ロックスター・ゲームスが 11 月 19 日、人気ゲームソフト「グランド・セフト・オート」シリーズの 13 年ぶりとなる新作「GTA6」を発売した。世界的なヒットが期待されるなか、PS5 の販売促進やゲーム事業の収益拡大への期待からソニーG<6758>が買われるなど、ゲーム関連株に物色が向かっている。半導体関連株の値動きが不安定ななか、年末商戦を控えたゲーム関連株は資金の受け皿としても意識されやすくなっているようだ。

また、IP（知的財産）・コンテンツに対する投資家の評価にも回復の兆しがみられる。ゲーム各社では、保有する IP を活用したグッズ販売や映像化など、ゲーム以外の収益源の拡充も進んでいる。年末商戦での販売動向に加え、有力 IP の多角的な活用による中長期的な収益拡大にも注目したい。下表では、家庭用ゲームやスマートフォン向けゲームの開発・運営などを手掛ける企業を取り上げている。

■主な「ゲーム」関連銘柄

コード	銘柄略称	市場	11/20 株価（円）	概要
2121	MIXI	プライム	3,965	スマートフォン向けゲーム「モンスターストライク」などを展開。
2432	ディー・エヌ・エー	プライム	2,554	「ポケポケ」の共同開発など、スマートフォン向けゲームの開発・運営を手掛ける。
3632	グリーHD	プライム	485	スマートフォン向けゲームやライブエンターテインメント事業を展開。
3635	コーエーテクモHD	プライム	1,974	「信長の野望」「無双」シリーズなどのゲームを展開。
3659	ネクソン	プライム	3,097	「メイプルストーリー」などのオンラインゲームを世界展開。
3765	ガンホーOE	プライム	2,619	「パズル＆ドラゴンズ」などのゲームの開発・運営を手掛ける。
3793	ドリコム	グロース	412	「ウィザードリィ」など有力IPを活用したゲームや出版・アニメ事業を展開。
4175	coly	グロース	2,519	「魔法使いの約束」など女性向けゲームの開発・運営や関連グッズ販売を手掛ける。
4751	サイバーエージェント	プライム	1,315	傘下のCygamesなどを通じてゲームの開発・運営を手掛ける。
6758	ソニーG	プライム	4,312	「PS5」などのゲーム機やソフト販売、ネットワークサービスを展開。
7832	バンダイナムコHD	プライム	7,068	有力IPを活用したゲームや玩具、映像・音楽事業などを展開。
7974	任天堂	プライム	8,832	「Nintendo Switch 2」などのゲーム機やゲームソフトを開発・販売。
9684	スクエニHD	プライム	3590	「ドラゴンクエスト」「ファイナルファンタジー」などを展開。
9697	カプコン	プライム	4,424	「モンスターハンター」「バイオハザード」などの人気シリーズを展開。
9766	コナミG	プライム	29,735	「eFootball」「桃太郎電鉄」などのゲームや遊戯王カードゲームを展開。

出所：フィスコ作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

株価調整も進んだ高配当利回り銘柄

■リバウンド期待も強まる中でバリュー株には相対的な買い安心感

株式市場には短期的な売られ過ぎ感も強まっており、目先はリバウンドへの期待を高めたい状況にあると考える。一方、先行き不透明感の強まるAI・半導体関連株には、今後も需給波乱の余地が残っているとみられる。相対的に買い安心感の強いバリュー株に注目、7-9 月期の決算発表も通過し配当計画の変更なども見られている中、足元での株価下落で利回り水準が相対的に高まっている銘柄をスクリーニングしている。

スクリーニング要件としては、①今期予想配当利回りが5%以上、②1カ月前比での株価下落率が20%以上。

■短期株価調整も進んだ高配当利回り銘柄

コード	銘柄	市場	11/20株価（円）	時価総額（億円）	配当利回り（%）	株価騰落率（%）	予想1株利益（円）
2737	トーメンデバイス	プライム	21,370.0	1453.6	7.67	-34.75	4411.22
3548	バロックジャパン	プライム	448.0	164.3	8.48	-26.80	-
407A	UNICONホールディングス	スタンダード	689.0	68.2	6.53	-23.10	111.35
4784	GMOインターネット	プライム	372.0	1133.5	5.78	-27.06	20.05
5021	コスモエネルギーHD	プライム	3,217.0	5309.4	5.13	-23.82	335.72
5208	有沢製作所	プライム	1,988.0	668.1	5.53	-25.65	137.10
546A	MIRAINIホールディングス	プライム	1,940.0	688.4	5.46	-22.24	447.66
6298	ワイエイシイホールディングス	プライム	854.0	166.7	5.27	-24.56	113.73
6677	エスケーエレクトロニクス	スタンダード	2,220.0	252.4	5.45	-24.95	243.34
6699	ダイヤモンドエレクトリックHD	スタンダード	367.0	49.6	6.81	-20.91	0.84
6998	日本タングステン	スタンダード	2,407.0	124.1	5.82	-26.17	347.94
9268	オプティマスグループ	スタンダード	257.0	198.0	7.00	-23.28	16.07

（注）株価騰落率は1カ月前比

出所：フィスコアプリより作成

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

アナリスト・レーティングと株価の関係

■レーティングの水準よりも変化に着目

大和証券は、アナリスト・レーティングと株価の関係に注目している。TOPIX500 構成銘柄を対象とした分析では、コンセンサス・レーティングの高い銘柄の投資パフォーマンスが安定しなかった一方、レーティングの前月差（Δレーティング）が大きい銘柄では良好な結果が得られたという。背景には、投資家の従来の見方を維持しようとする「保守性バイアス」により、好材料が株価に織り込まれるまでに時間を要することがあると指摘。さらに、Δレーティングが低位から高位へ転じた銘柄では、より高い投資パフォーマンスが確認された。同証券では、この分析をもとに 11 月 16 日時点で条件に該当する 32 銘柄を抽出している。

「：Δレーティング（T-1）：低、Δレーティング（T）：高に該当した銘柄」（大和証券）

No.	コード	銘柄略称	東証33業種	時価総額（億円）	レーティング	Δレーティング（T-1）	Δレーティング（T）	ROE	PER（倍）	3ヵ月リターン
1	1942	関電工	建設業	9,330	1.33	-1.17	1.33	17.6%	13.6	-17.2%
2	7867	タカラトミー	その他製品	5,039	1.33	-1.50	1.33	18.2%	24.9	43.7%
3	6526	ソシオネクスト	電気機器	3,225	0.40	-1.00	1.07	9.2%	26.3	-10.3%
4	4768	大塚商会	情報・通信業	14,471	0.86	-1.20	0.86	17.2%	21.3	5.5%
5	2502	アサヒGHD	食料品	28,047	2.00	-0.18	0.75	7.1%	13.1	10.0%
6	5929	三和HD	金属製品	8,712	0.71	-0.71	0.71	15.1%	16.6	9.4%
7	1944	きんでん	建設業	9,733	0.67	-1.20	0.67	11.0%	12.9	-16.6%
8	1959	クラフティア	建設業	5,484	2.00	-0.07	0.67	12.4%	12.8	-5.0%
9	4540	ツムラ	医薬品	3,066	0.67	-0.40	0.67	9.1%	10.4	5.6%
10	4568	第一三共	医薬品	53,465	1.67	-0.56	0.67	16.6%	19.1	0.8%
11	5019	出光興産	石油・石炭製品	15,633	1.50	-0.14	0.64	11.4%	7.2	-10.0%
12	8282	ケーズHD	小売業	2,964	1.00	-0.10	0.60	8.2%	14.5	-9.4%
13	6367	ダイキン工業	機械	69,175	1.33	-0.09	0.53	8.9%	24.0	11.6%
14	2264	森永乳業	食料品	4,433	2.00	-0.50	0.50	8.5%	19.1	12.3%
15	9009	京成電鉄	陸運業	7,986	0.00	-0.50	0.50	7.6%	18.8	13.2%
16	9531	東京瓦斯	電気・ガス業	22,677	0.50	-0.20	0.50	8.0%	16.5	9.4%
17	7309	シマノ	輸送用機器	18,665	0.00	-0.40	0.40	6.0%	35.7	8.1%
18	9706	日本空港ビルデング	不動産業	6,202	0.40	-0.60	0.40	12.7%	23.3	12.7%
19	6645	オムロン	電気機器	9,634	1.17	-0.51	0.39	5.5%	20.9	-29.9%
20	6504	富士電機	電気機器	16,266	0.88	-0.38	0.38	15.0%	13.6	-21.3%
21	6301	小松製作所	機械	55,543	0.75	-0.10	0.35	11.0%	14.4	-18.4%
22	7259	アイシン	輸送用機器	16,346	1.00	-0.08	0.33	6.8%	10.9	0.0%
23	9984	ソフトバンクグルー	情報・通信業	195,117	1.67	-0.34	0.31	3.4%	32.5	-34.3%
24	3116	トヨタ紡織	輸送用機器	3,894	-1.20	-0.93	0.30	10.2%	7.9	-9.0%
25	6305	日立建機	機械	10,885	0.29	-0.17	0.29	10.4%	11.6	-11.8%
26	3407	旭化成	化学	21,567	1.71	-0.31	0.27	8.5%	12.1	-2.3%
27	4205	日本ゼオン	化学	4,244	0.67	-0.60	0.27	11.5%	9.8	-19.4%
28	6326	クボタ	機械	28,115	0.40	-0.87	0.27	10.7%	10.0	-15.8%
29	6988	日東電工	化学	23,669	0.43	-0.27	0.26	12.8%	16.0	1.6%
30	6383	ダイフク	機械	17,324	2.00	-0.20	0.20	21.8%	17.6	-21.4%
31	8015	豊田通商	卸売業	62,063	1.20	-0.33	0.20	14.7%	13.3	-12.1%
32	9076	セイノーHD	陸運業	4,820	0.67	-0.10	0.17	8.0%	13.6	-7.6%

出所：東洋経済、日経、IFIS、Bloomberg をもとに大和証券作成
注：TOPIX500 ユニバース。予想するアナリストが 2 人未満の銘柄は分析対象外。Δレーティング（T-1）は 2026 年 9 月末から 2026 年 10 月末までの前月差で算出。Δレーティング（T）は 2026 年 10 月末から 2026 年 11 月 16 日にかけての前月差で算出。時価総額は 11 月 16 日時点。ROE、PER は時間加重予想で 2026 年 11 月 16 日時点。3 ヵ月リターンは 2026 年 8 月末から 2026 年 11 月 16 日までで算出。ソートはΔレーティング（T）の降順

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

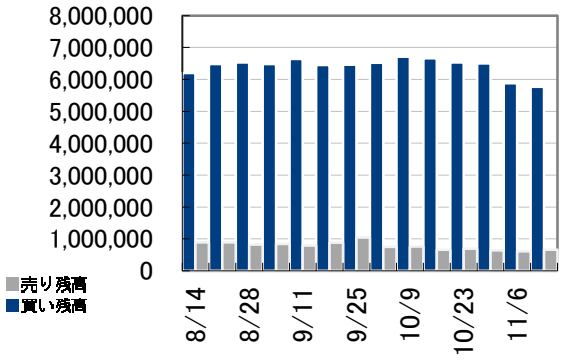
米中間選挙後の混乱からやや持ち直し

11 月 13 日時点の 2 市場信用残高は、買い残高が 1128 億円減の 5 兆 7681 億円、売り残高が 465 億円増の 6600 億円。買い残高が 5 週連続の減少、売り残高は 3 週間ぶりの増加となった。また、買い方の評価損益率は－21.08%から－15.49%、売り方の評価損益率は 16.45%から 13.61%に。なお、信用倍率は 9.59 倍から 8.74 倍となった。

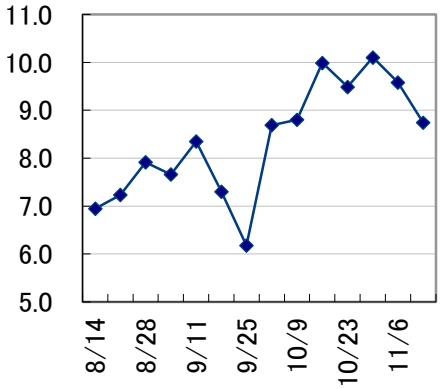
この週（11 月 9 日－13 日）の日経平均は前週末比 3707.58 円高の 61142.35 円。前週末にかけての大幅安の反動が強まり、週初からリバウンドの動きが優勢に。日経平均も 10 日には節目の 60000 円台を回復、その後も、米アンソロピックの新規株式公開（IPO）に関して、主幹事が公開価格の仮条件を引き上げる検討をしていることが分かったと伝わったことや、米コアウィーブの好決算発表なども AI 関連株の追い風となった。週後半にかけては、米エヌビディアの CEO 解任を巡る報道が伝わり、一時売り圧力が強まる場面も見られた。ただ、週末は、買い戻しが優勢となって週の取引を終えた。

個別では、ノースサンド<446A>の信用倍率は 0.88 倍と、前週の 18.56 倍から一気に売り長の需給状況になった。同社は 9 日、プライム市場への上場市場区分変更を機に、株式の流動性向上を図ることを目的として株式の売出しを発表。需給悪化を警戒した新規売りが積み上がる形になったようである。日産自<7201>の信用倍率は 4.25 倍と、前週の 48.10 倍から大幅に低下した。米指数算出大手の MSCI は 11 日、代表的な指数の構成銘柄の定期見直しを発表。今回の見直しで除外となったことで、ファンドからの資金流出を想定した新規売りが膨らんだようである。ANAHD<9202>も同様に除外となり、信用倍率は 0.58 倍と、前週の 1.41 倍から売り長になった。なお、入れ替えは 30 日の取引終了時点で実施されるため、それまでは指数連動ファンドの売り需要が意識されやすいだろう。

信用残高 金額ベース　単位：百万円



信用倍率（倍）



取組みが改善した銘柄

コード	市場	銘柄	11/20終値（円）	信用買残（11/13:株）	信用売残（11/13:株）	信用倍率（11/13:倍）	信用買残（11/6:株）	信用売残（11/6:株）	信用倍率（11/6:倍）
446A	グロース	ノースサンド	2,389.0	1,350,600	1,541,400	0.88	751,800	40,500	18.56
7201	プライム	日産自動車	266.3	68,738,200	16,184,200	4.25	64,752,000	1,346,100	48.10
6315	プライム	TOWA	2,352.0	3,502,700	452,600	7.74	3,901,100	133,900	29.13
3028	プライム	アルペン	2,662.0	41,000	611,600	0.07	131,500	526,700	0.25
8002	プライム	丸紅	4,460.0	2,207,600	490,600	4.50	2,552,600	187,400	13.62
8331	プライム	千葉銀行	2,288.0	516,700	819,700	0.63	534,100	286,900	1.86
9202	プライム	ANAHD	3,323.0	372,700	647,500	0.58	404,600	286,400	1.41
3563	プライム	FOOD & LIFE	5,951.0	440,800	308,300	1.43	674,900	198,700	3.40
9201	プライム	日本航空	3,530.0	541,000	384,700	1.41	630,100	239,900	2.63
3964	プライム	オークネット	1,201.0	568,800	1,459,100	0.39	500,000	749,100	0.67
9716	プライム	乃村工藝社	1,235.0	439,900	900,800	0.49	426,200	545,200	0.78
4004	プライム	レゾナック・HD	10,995.0	819,100	117,700	6.96	850,900	78,800	10.80
8830	プライム	住友不動産	3,338.0	1,489,700	563,100	2.65	1,480,700	363,900	4.07
8058	プライム	三菱商事	4,840.0	3,621,400	1,194,300	3.03	4,514,700	968,500	4.66
6526	プライム	ソシオネクスト	1,571	5,820,100	1,131,500	5.14	7,145,900	905,500	7.89

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

コラム：人民元高の減速

1 年半にわたる人民元の上昇は一服し、足元はややドル高に押される展開です。米金融引き締めをにらみ、短期的にドル買いが強まっているのが背景。ただ、米中間選挙での共和党惨敗やエヌビディアの醜聞を受け、ドル・人民元相場にも微妙な変化が表れそうです。

ドル・元は 11 月に入り 6.66 元付近で推移し、10 月末の水準からややドル高・元安に振れています。米中間選挙で圧勝した民主党による財政規律の強化が期待されるほか、消費者物価指数（CPI）の加速、さらには連邦準備制度理事会（FRB）当局者のタカ派的な見解で 12 月と来年 1 月の利上げが見込まれているためです。それらを受けドル選好地合いとなり、ドル指数は高値水準に浮上しました。

人民元は 2025 年 4 月に 7.35 元付近まで下落した後、ほぼ一貫して上昇基調をたどりました。同年後半には 7 元台前半まで回復し、2026 年もドル安・元高が進行。節目の 7 元を突破すると、10 月末には 6.65 元台と約 4 年ぶりの高値圏に達しました。中国の巨額の貿易黒字を背景とする元買いや、通貨高を容認する中国当局の姿勢が相場を支えてきましたが、11 月に入ると上昇の勢いに陰りが見え始めています。

米中関係は今後、通商分野での協調と先端技術を巡る対立が併存する複雑な局面を迎えそうです。米中間選挙を受け議会運営で主導権を失うトランプ大統領は、外交成果を求めて中国との関係改善に動くとみられます。一方、エヌビディア幹部を巡るスパイ疑惑は、米議会の対中強硬論を勢いづかせました。半導体の輸出規制が強化されれば中国側の反発は避けられず、技術覇権を巡る摩擦も予想されます。

こうした政治情勢の変化は、元高の減速要因になると考えられます。トランプ政権の求心力低下で、中国が対米配慮から元高を容認する必要性が薄れるためです。半導体規制による景気への悪影響も、元高を抑える材料に。ただ、巨額の貿易黒字に伴う元買いが続くうえ、中国当局も資本流出や輸入物価の上昇を招く急激な通貨安は望まないでしょう。当面は緩やかな元高と小幅な調整を繰り返す展開が見込まれます。

中国人民銀行は外貨預金準備率を4%から6%に引き上げ、足元では元の対ドル基準値を市場予想より元安方向に設定するケースも目立ちます。通貨高の勢いを抑える姿勢が鮮明となるなか、19 日の米中首脳会談は無難に通過。ただ、通商協議の進展と半導体規制を巡る対立の行方は不透明で、元高減速は避けられないというのが市場の見立てです。

※あくまでも筆者の個人的な見解であり、弊社の見解を代表するものではありません。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

1	スケジュール	経済カレンダー	2-4
		決算カレンダー	5
2	レーティング	格上げ・買い推奨	6
		格下げ・売り推奨	7
3	投資主体別売買動向	総括コメント	
		市場別データ	
4	新規上場銘柄	結果とスケジュール	8-9
5	一目均衡表雲抜け銘柄	雲上抜け銘柄（プライム）	10
		雲下抜け銘柄（プライム）	11-13

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

11 月 23 日～11 月 29 日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
11月23日	月	14:00	印・製造業PMI速報(11月)
		14:00	印・サービス業PMI速報(11月)
		14:00	印・総合PMI速報(11月)
		17:30	独・製造業PMI速報値(11月)
		17:30	独・サービス業PMI速報値(11月)
		17:30	独・総合PMI速報値(11月)
		18:00	欧・ユーロ圏製造業PMI速報値(11月)
		18:00	欧・ユーロ圏サービス業PMI速報値(11月)
		18:00	欧・ユーロ圏総合PMI速報値(11月)
		18:30	英・製造業PMI速報値(11月)
		18:30	英・サービス業PMI速報値(11月)
		18:30	英・総合PMI速報値(11月)
		20:00	ブ・FGV消費者物価指数(IPC-S)(先週)
		20:25	ブ・週次景気動向調査
		21:00	メキシコ・GDP(7-9月)
		23:45	米・製造業PMI速報値(11月)
		23:45	米・サービス業PMI速報値(11月)
		23:45	米・総合PMI速報値(11月)
		27:00	ブ・貿易収支(先週)
			株式市場は祝日のため休場(勤労感謝の日)
			米・ニューヨーク連銀総裁が講演・質疑応答に参加
11月24日	火	09:30	製造業PMI(11月)
		09:30	サービス業PMI(11月)
		09:30	総合PMI(11月)
		14:00	欧・ユーロ圏新車販売台数(10月)
		18:00	独・IFO企業景況感指数(11月)
		20:00	ブ・FGV消費者信頼感指数(11月)
		23:00	米・S&P主要20都市住宅価格指数(9月)
		23:00	米・FHFA住宅価格指数(9月)
		24:00	米・消費者信頼感指数(11月)
			月例経済報告(11月)
11月25日	水	08:50	企業向けサービス価格指数(10月)
		09:30	豪・消費者物価指数(10月)
		14:00	消費者物価のコア指標(日本銀行)
		14:30	東京地区百貨店売上高(10月)
		14:30	全国百貨店売上高(10月)
		15:00	工作機械受注(10月)
		16:00	独・GDP(7-9月)
		17:00	ブ・FIPE消費者物価指数(先週)
		20:00	ブ・FGV建設コスト(11月)
		22:30	米・新規失業保険申請件数(先週)
		22:30	米・耐久財受注(10月)
		22:30	米・GDP(7-9月)
		22:30	米・個人所得(10月)
		22:30	米・個人消費支出(10月)
		22:30	米・個人消費支出(PCE)価格コア指数(10月)
		24:00	米・新築住宅販売件数(10月)
		28:00	米・地区連銀経済報告(ベージュブック)公表
			TOKIUMが東証グロースに新規上場(公開価格:1620円)

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

11 月 23 日～11 月 29 日※全て日本時間で表示

日付	曜日	時間	内容
11月26日	木	10:00	田村日銀直樹審議委員が山梨県金融経済懇談会で講演、同記者会見
		10:00	中・SWIFTグローバル支払い元建て(10月)
		10:10	国債買い入れオペ(残存3-5年、残存10-25年、物価連動債)(日本銀行)
		14:00	景気先行CI指数(9月)
		14:00	景気一致指数(9月)
		18:00	欧・ユーロ圏マネーサプライ(10月)
		20:30	ブ・経常収支(10月)
		20:30	ブ・海外直接投資(10月)
		21:00	ブ・拡大消費者物価指数(IPCA-15)(11月)
			EQTによるカカクコムのTOB期限
			韓・中央銀行が政策金利発表
			欧・欧州連合(EU)特別予算サミット
			米・株式市場は祝日のため休場(感謝祭)
11月27日	金	08:30	東京CPI(11月)
		08:50	対外・対内証券投資(先週)
		10:30	中・工業利益(10月)
		17:55	独・失業率(11月)
		18:00	欧・欧州中央銀行(ECB)がユーロ圏CPI予想(10月)
		19:00	欧・ユーロ圏景況感指数(11月)
		19:00	欧・ユーロ圏消費者信頼感指数(11月)
		20:00	ブ・FGVインフレIGPM(11月)
		20:30	印・外貨準備高(先週)
		20:30	ブ・ローン残高(10月)
		20:30	ブ・融資残高(10月)
		20:30	ブ・個人ローン・デフォルト率(10月)
		21:00	ブ・全国失業率(10月)
		22:30	米・卸売在庫(10月)
			米・株式市場は短縮取引(感謝祭翌日の金曜日「ブラックフライデー」)
11月28日	土		台湾・統一地方選
11月29日	日		スペイン・総選挙
			「石油輸出国機構(OPEC)プラス」閣僚級会合

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

■(豪)10 月消費者物価指数(CPI)
11 月 25 日(水)午前 9 時 30 分発表予定

(予想は、前年比+4.8%)　9 月は総合指数が前年比+4.3%と 8 月の+4.0%から加速し、基調的なインフレ圧力の強さも確認された。今回はエネルギー価格の上昇などを背景に、総合指数がさらに加速する見通し。オーストラリア準備銀行(中央銀行、RBA)は 11 月会合で政策金利を 4.85%へ引き上げており、12 月の追加利上げの可能性を判断する上で重要な材料となる。予想を上回れば豪ドル買いが強まりやすい一方、物価上昇圧力の鈍化が示されれば豪ドルの上値を抑える可能性がある。

■(米)10 月コア PCE 価格指数
11 月 25 日(水)午後 10 時 30 分発表予定

(予想は、前月比+0.3%、前年比+3.2%)　25 日発表の米 10 月コア PCE 価格指数は、前月比は+0.3%と 9 月(+0.3%)から横ばいとなる一方、前年比では+3.2%と 9 月(+3.1%)からやや加速が予想される。インフレ圧力継続なら、米連邦準備制度理事会(FRB)の追加利上げ観測を支えドル買い材料となる。

■(米)7ー9 月期国内総生産(GDP)改定値
11 月 25 日(水)午後 10 時 30 分発表予定

(予想は、前期比年率+3.5%)　今回は速報値の前期比年率+3.4%から大きな修正はないとの見方が中心だが、個人消費や設備投資など内需の動向に加え、同時に発表される企業収益にも注目したい。上方修正されれば米景気の底堅さからドル買い、下方修正なら景気減速懸念からドル売りにつながる可能性がある。

■(日)11 月東京都区部消費者物価指数(CPI)
11 月 27 日(金)午前 8 時 30 分発表予定

(予想は、総合前年比+3.1%、生鮮食品除く同+2.9%、生鮮食品・エネルギー除く同+2.7%)　前回 10 月は生鮮食品を除く指数が前年比+2.6%と 9 月の同+2.7%から小幅に鈍化したものの、依然として日銀の 2%目標を上回った。今回はエネルギーや食品価格の動向に加え、サービス価格を中心とした基調的な物価上昇圧力が続くかが焦点。12 月の日銀金融政策決定会合を控え、予想を上回れば追加利上げ観測から円買いが入りやすい一方、物価鈍化が鮮明となれば円売りにつながる可能性がある。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項(ディスクレーマー)をお読みください。

※なお、下記のカレンダーはあくまでも予定で企業の都合により変更される可能性があります。

日付	コード	銘柄	上場部名	時刻
11月25日	2391	プラネット	スタンダード	
11月26日	2590	DyDo	プライム	
	7590	タカショー	スタンダード	
11月27日	7488	ヤガミ	名証メイン	

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

格上げ・買い推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
11月17日	UBS	6814	古野電気	BUY新規	11000
	みずほ	6503	三菱電	中立→買い格上げ	6400
11月18日	UBS	4547	キッセイ薬	NEUTRAL→BUY格上げ	4400→6100
	岡三	7730	マニー	強気新規	2400
	大和	4475	HENNGE	1新規	3300
11月19日	東海東京	6457	グローリー	NEUTRAL→OUTPERFORM格上げ	4540→5400
11月20日	UBS	2212	山崎パン	NEUTRAL→BUY格上げ	4200→5100
	野村	6834	精工技研	BUY新規	6600
		9007	小田急	NEUTRAL→BUY格上げ	1700→2300

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

格下げ・売り推奨

※下記のレーティングや目標株価は証券各社が発表したもののうち、フィスコが把握したものを集計しています。

日付	証券会社	コード	社名	レーティング	目標株価（円）
11月17日	ゴールドマン	5105	TOYO	買い→中立格下げ	5500→4800
	みずほ	6644	大崎電	買い→中立格下げ	2150→1250
	モルガン	6861	キーエンス	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	105000→91000
	岡三	4183	三井化学	強気→中立格下げ	2700→2000
	東海東京	6370	栗田工	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	9780→6250
11月18日	モルガン	4043	トクヤマ	OVERWEIGHT→EQUALWEIGHT格下げ	5400→4800
	岡三	3659	ネクソン	強気→中立格下げ	3600→3200
	東海東京	6376	日機装	OUTPERFORM→NEUTRAL格下げ	4240→3040
11月19日	シティ	4887	サワイグループHD	1→2格下げ	2100→1700
	岡三	7729	東精密	強気→中立格下げ	24000→13400
11月20日	UBS	5713	住友鉱	NEUTRAL→SELL格下げ	10040→5290
	岡三	6525	KOKUSAI	強気→中立格下げ	10200→6200

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

※　データは直近の新規上場銘柄の結果とスケジュールを全て掲載しています。
証券会社によって取り扱いが異なりますので、お取引の際は各証券会社にご確認ください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件（円/発表日）	公募株数（株）	売出株数（株）	公募価格（円/発表日）	初値（円）	主幹事	11/20終値（円）
HiJoJo Partners	657A	グロース	11/20	550～560	5,405,400	4,954,900	560	517	みずほ、SMBC日興	469
事業内容:	スタートアップ企業投資及び組入れファンド販売等									
TOKIUM	664A	グロース	11/25	1,570～1,620	617,300	1,971,300	1,620	－	SMBC日興	－
事業内容:	経理領域における業務プロセスを丸ごと受託し、業務成果を納品する経理AIエージェント「TOKIUM」を顧客に提供									
ジャパンホームシールド	667A	スタンダード	11/30	1,220～1,240	0	4,796,500	1,240	－	野村	－
事業内容:	地盤調査及び関連事業、地盤工事及び関連事業、建物検査及び関連事業									
M&Aロイヤルアドバイザリー	669A	グロース	12/3	210～220	50,000	8,684,000	11/24	－	野村	－
事業内容:	M&A仲介事業									
NOTA	673A	グロース	12/9	11/20	5,080,800	12,216,600	11/30	－	野村、SBI	－
事業内容:	滞在・住宅・移動・街づくりをはじめとする事業の企画・開発・運営									
Beyont	674A	グロース	12/11	11/25	271,800	576,500	12/3	－	大和	－
事業内容:	AIソリューション事業（AI開発・導入支援/AI/DX 人材育成・組織開発）、GX・サステナビリティ推進支援、量子技術の普及・活用支援									
日本総険	5840	福Q	12/14	11/26	60,000	110,000	12/4	－	フィリップ・キャピタル	－
事業内容:	保険仲立人業を中核としたリスクサービス事業									
スマートニュース	676A	グロース	12/15	11/30	0	8,081,500	12/7	－	MUMSS、モルガン、野村	－
事業内容:	スマートフォンアプリケーションの開発・運営／インターネットサービスの開発・運営									
WHI Holdings	679A	プライム	12/15	11/30	0	42,735,200	12/7	－	野村、GS、SMBC日興、BofA	－
事業内容:	大手企業向け統合人事システム「COMPANY」の開発・販売・サポート、HR 関連サービスの提供									
FOLIOホールディングス	677A	グロース	12/17	12/1	3,050,000	13,899,500	12/9	－	大和、SMBC日興、SBI、UBS	－
事業内容:	金融インフラストラクチャー事業、AI投資運用事業									
パイフォトニクス	680A	名ネクスト	12/17	11/30	150,000	150,000	12/9	－	アイザワ	－
事業内容:	光パターン形成LED照明装置「ホロライト・シリーズ」の開発、製造、販売									
Berry	681A	グロース	12/18	11/30	454,000	531,000	12/9	－	東海東京	－
事業内容:	乳児を対象とする頭蓋形状矯正ヘルメット「ベビーバンド」の開発・製造・販売等									
IGホールディングス	686A	スタンダード	12/18	12/1	1,156,000	121,000	12/10	－	みずほ	－
事業内容:	以下の3事業を展開する事業会社を統括する純粋持株会社：IBM製品を中心とした各種ハードウェアの販売や保守サービスの提供／各種ソフトウェアの販売やサービスの提供／サプライ製品や3Dプリンター、太陽光発電関連商品の販売									

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

銘柄名	コード	市場	上場日	仮条件（円/発表日）	公募株数（株）	売出株数（株）	公募価格（円/発表日）	初値（円）	主幹事	11/20終値（円）
コネクティ	688A	グロース	12/18	12/2	50,000	636,600	12/10	－	SMBC日興	－
事業内容：	企業のWeb・AI向けデジタルコミュニケーションを支える、CMSプラットフォームと活用支援事業									
GROWTH VERSE	710A	グロース	12/18	12/2	580,000	610,700	12/10	－	SBI	－
事業内容：	データ×AIで企業の成長力を最大化するためのAI Agentの提供（マーケティング領域／小売領域／音声領域）									
コスモルート	687A	名ネクスト	12/21	12/1	100,000	100,000	12/10	－	Jトラストグローバル	－
事業内容：	製造業の生産・物流領域におけるDX支援・IoT制御・組込開発・アプリ開発・運用保守及び企業の業務運用・管理領域における基幹系システム構築・ERP 導入支援等									
ヒューマンアジャスト	249A	福Q	12/21	12/3	120,000	80,000	12/11	－	フィリップ・キャピタル	－
事業内容：	鍼灸院、接骨院の運営									
ユニテックフーズ	711A	スタンダード	12/22	12/4	300,000	1,507,900	12/11	－	野村	－
事業内容：	素材販売（食品原料、食品添加物）、素材加工製品（ブレンド及びその他加工）の製造販売、ODM（食品・化粧品）、商品開発コンサルティング（食品）									

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲上抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
1780	ヤマウラ	1503	1492	1446
3561	力の源HD	1452	1451.5	1450
3765	ガンホー	2619	2396.5	2592
4547	キッセイ薬	4370	4245	4270
9543	静岡ガス	1399	1393.75	1339.5

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
2882	イートアンド	2022	1998	2020.5
3635	コーエーテクモ	1974	1710.75	1935.5
4527	ロート薬	2632	2451	2334
8253	クレセゾン	4606	4300.25	4250.5

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
1417	ミライトワン	3240	3853.75	3393	1433	ベステラ	1097	1145.5	1179
1515	日鉄鉱	2089	2845.75	2962.5	1605	INPEX	3312	4127	3446.5
1719	安藤ハザマ	1727	1952	1850	1773	YTL	72	76.5	79
1802	大林組	3197	3679.75	3278	1815	鉄建	2092	2408.75	2127
1870	矢作建	2076	2096	2098	1945	東京エネシス	1716	2168.75	1913.5
1946	トーエネック	1686	2186	1833	1951	エクシオG	2308	2775.5	2428.5
1963	日揮HD	1935	2426.75	2063	1979	大気社	3240	3861.25	3502
2317	システナ	440	446.5	471	2353	日駐	260	265.25	271
2410	キャリアDC	2094	2454.5	2187	2413	エムスリー	1681	1721.25	2021.5
2533	オエノンHD	458	466.25	532	2875	東洋水産	10450	11007.5	10621.5
2897	日清食HD	2826	2907.5	2954.5	2914	JT	5265	6011.25	5306.5
2935	ピックルスHD	1141	1203.25	1148	2982	ADワークスグループ	360	423.5	401
3046	JINSHD	6540	6682.5	7625	3093	トレファク	1735	1764.75	1858.5
3101	東洋紡	1348	1554.75	1381	3139	ラクトJPN	3405	3452.5	3737.5
3150	グリムス	2581	2693.5	2641.5	3151	バイタルKSK	1400	1482.75	1413.5
3153	八洲電機	2514	3028	2651	3180	Bガレジ	1443	1478	1516
3252	地主	2766	3235	2890	3498	霞ヶ関キャピタル	6190	6667.5	8195
3612	ワールド	1435	1559.25	1466.5	3665	エニグモ	397	405.25	398
3668	コロプラ	415	418.25	457	3687	Fスターズ	1407	1951.5	1951.5
3769	GMOPG	7900	8365	8632.5	3861	王子HD	809	849.25	834
3915	テラスカイ	1817	1874.75	2339.5	3921	ネオジャパン	1658	1661	1827.5
3939	カナミックN	489	531.5	492.5	3993	PKSHA	2639	3043	3530.5
4004	レゾナック	10995	14106	11766	4005	住友化	460	542.75	479.5
4042	東ソー	2354	2540.25	2446.5	4043	トクヤマ	3335	4366	3982.5
4062	イビデン	4672	7339	6463	4071	プラスアルファ	2207	2320.25	2307
4072	電算システムHD	2937	3129.75	3791	4099	四国化HD	1786	2585.5	2195.5
4204	積水化	2569	2578	2659.5	4216	旭有機材	4890	5965	5407.5
4318	クイック	818	830.25	840.5	4368	扶桑化学	2540	3537.75	2980.5
4385	メルカリ	3141	3699.5	3199.5	4461	第一工業	7340	9632.5	8032.5
4462	石原ケミカル	2336	2587.25	2455	4506	住友ファーマ	1820	2125.5	2019.5
4626	太陽HD	4567	5119.5	4607.5	4709	IDHD	981	988.25	1077.5
4743	アイティフォー	1555	1674.75	1590	4751	サイバー	1315	1334.75	1568.5
4765	SBIGAM	584	605.75	618.5	4902	コニカミノルタ	514	581.5	580.5
5019	出光興産	1155	1440.75	1261	5105	TOYO	3830	3953	3882
5208	有沢製	1988	2339	2085	5233	太平洋セメ	3672	4047.5	4116.5
5269	日コンクリ	327	332.25	357	5310	東洋炭素	5540	6391.25	5915
5302	日カーボン	4520	4707.5	4535	5332	TOTO	5072	6170.25	5658.5
5331	ノリタケ	2697	3437.5	2897.5	5384	FUJIMI	2630	3253.75	2897.5
5334	日特殊陶	3454	4290.25	3700.5	5444	大和工	10545	11765	10778
5406	神戸鋼	1872	2027.5	1942					

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
5461	中部鋼鈑	2230	2272.5	2258.5	5563	日本電工	365	458.75	402
5702	大紀アルミ	1347	1615	1510.5	5703	日軽金HD	2300	2903	2451
5711	三菱マ	3512	5001	4157.5	5851	リョービ	2351	2651.5	2557
5857	AREHD	3115	3737.5	3238.5	5889	JEH	2040	2114.5	2216
5938	LIXIL	1641	1698.75	1781	5943	ノーリツ	2176	2306	2205
5949	ユニプレス	1190	1336.25	1219.5	5957	日東精工	680	760.75	685
5981	東製綱	1588	1807.5	1649	5991	ニッパツ	2569	3044	2620.5
6104	芝浦機	3755	4410	4130	6113	アマダ	2079	2599.75	2342.5
6183	ベルシス24	1360	1464.5	1396.5	6247	日阪製作	1491	1590.75	1570
6272	レオン自機	1414	1533.75	1423.5	6277	ホソミクロン	5390	5975	5437.5
6282	オイレスエ	2355	2558	2435	6284	ASB機械	7570	8077.5	7625
6301	コマツ	5578	6502.75	6072.5	6302	住友重	4510	5237.5	4579.5
6323	ローツェ	2754	3217.5	2902.5	6326	クボタ	2242	2706.75	2408.5
6339	新東工	1029	1102.5	1064.5	6364	AIRMAN	1897	1929.25	1930.5
6376	日機装	2318	2715	2339.5	6395	タダノ	1219	1308.5	1240.5
6413	理想科学	1094	1108	1122	6472	NTN	311	400	348
6474	不二越	4495	5096.25	4536	6479	ミネベア	2637	3571.75	3256.5
6480	日トムソン	1155	1551.5	1422	6498	キッツ	1650	2039.75	1779.5
6501	日立	4763	5059.25	4930.5	6517	デンヨー	3225	3615	3330
6525	KOKUSAI	4897	6480	5503.5	6630	ヤーマン	499	731	774
6645	オムロン	4363	5152	4896	6651	日東工	3945	4546.25	4009.5
6652	IDEC	2905	3300.75	2987	6779	日電波	1493	2342.25	2174
6806	ヒロセ電	20720	23337.5	22422.5	6810	マクセル	1968	2131.25	2147.5
6856	堀場製	17350	22056.25	19072	6859	エスペック	3395	3485.25	3451
6871	マイクロニクス	8802	12592.5	10717.5	6905	コーセル	1124	1345.75	1331
6923	スタンレー電	3015	3179	3178	6925	ウシオ電	2739	3493.5	3053.5
6966	三井ハイテク	679	799.5	796	6976	太陽誘電	6187	9365.75	8801
6981	村田製	4700	6570.75	6029.5	6999	KOA	1706	2159	1868.5
7059	コプロHD	860	894	967.5	7102	日車輌	3160	3650	3222.5
7172	JIA	2030	2107.5	2063.5	7199	プレミアグルーフ	1825	1924.5	2038.5
7244	市光工	453	525.75	472.5	7231	トピー工	2920	3037.75	2939.5
7261	マツダ	1057	1129	1109	7241	フタバ産	902	1027.5	941
7278	エクセディ	5100	5835	5147.5	7245	大同メタル	871	1016.5	958.5
7628	オーハシテク	1115	1125.75	1130	7270	SUBARU	2698	2714	2945
7734	理計器	3145	3387.5	3338	7388	FPパートナー	2126	2297.75	2217.5
7744	ノーリツ鋼機	1827	2084.5	1901.5	7717	Vテク	4140	4830.75	4457
7769	リズム	3455	3691.25	3680	7741	HOYA	22885	27395	23302.5
7821	前田工繊	1865	1937.5	1986.5	7745	A＆Dホロン	2408	2615	2410.5
7818	トランザク	1190	1204.75	1190.5	7840	フラベッドH	1288	1295.5	1304

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

雲下抜け銘柄(プライム)

コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）	コード	銘柄	終値（円）	先行スパンA（円）	先行スパンB（円）
7912	大日印	2524	2931	2695	7944	ローランド	3820	4158.75	3847.5
7949	小松ウオール	2554	2630.5	2623.5	7952	河合楽器	2753	2932.25	2855.5
7995	バルカー	5460	6232.5	5609	8002	丸紅	4460	5431.25	4561.5
8031	三井物産	4476	5659	4760	8061	西華産	2506	3001.75	2553
8070	東京産	882	909	936	8101	GSIクレオス	2341	2481.5	2406.5
8151	東陽テクニカ	1716	1940	1816	8473	SBI	2620	3176.75	3005.5
8593	三菱HCキャ	1280	1398	1291.5	8614	東洋証	610	674.5	632
8714	池田泉州	755	912.75	775	8771	Eギャランティ	1657	1715.25	1663.5
8793	NECキャピ	4040	4116.25	4042.5	8802	三菱地所	3920	4414.25	4015
8803	平和不	2351	2376.5	2354.5	8897	ミラースHD	392	408.75	401
8919	カチタス	2939	3368	3010	9003	相鉄HD	2601	2798.5	2654
9008	京王	748	784.5	765	9037	ハマキョウ	1615	1808.75	1616
9065	山九	1593	1793.75	1696.5	9247	TREHD	1309	1605	1592.5
9435	光通信	39800	39927.5	40990	9468	カドカワ	3404	3439.75	3409.5
9692	シーイーシー	2064	2079.75	2181.5	9699	西尾HD	4260	4263.75	4330
9739	NSW	2401	2479.25	2545.5	9769	学究社	2332	2444.5	2405
9880	イノテック	2918	3526.5	3115	1418	インターライフ	540	567.25	552
1783	ファンタジス	54	62.75	57.5					

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレーマー）をお読みください。

株式、債券、ファンド、上場ETF及び上場リートのご購入の際のご注意事項

当資料は、投資判断の参考となる情報提供のみを目的としており、個別の金融商品の投資勧誘を目的として作成または提供するものではありません。当資料は、作成者が信頼できると判断した情報源に基づいて作成されていますが、その情報の正確性や完全性を、または、将来の経済・市況動向等を予測・保証するものではありません。また、当資料中の見解等は今後予告なく変更される場合がありますので、投資に係る最終決定はご自身の判断でなさいますようお願い申し上げます。金融商品等の手数料等及びリスクについては、当該商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面、目論見書及びお客さま向け資料等に記載しておりますので、よくお読みください。

【お取引時の手数料について】(営業店でお取引の場合の手数料率、税込表示)

● 国内株式の売買取引には約定代金に対して最大1.155%の売買手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。マルチネット取引で売買いただく場合には対面取引の基本手数料から20%割引(当該金額が2,200円に満たない場合には、一律2,200円)となります。又、外国株式の売買取引には売買金額(現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合は加え、売りの場合は差し引いた金額)に対して最大0.88%の委託手数料(同手数料額が2,750円に満たない場合は2,750円)をいただきます。
● 非上場債券(国債、地方債、政府保証債、社債等)を当社が相手方となり、お買付けいただく場合には、購入対価のみお支払いいただきます。
● ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。<直接費用>購入手数料(スイッチング手数料を含む)上限3.85%、換金手数料上限1.10%、信託財産留保額上限0.50%が必要となります。マルチネット取引の場合は購入手数料(スイッチング手数料を含む)、換金手数料について対面取引手数料の20%割引となります。
<間接費用>運用管理費用(信託報酬)上限2.50%、(注)その他の費用・手数料(監査費用、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用、信託事務に要する諸費用等)をご負担頂きます。(注)その他費用・手数料は、運用状況等により変動する為、料率の上限等を示すことができません。
● 外国株式、外国債券、外国投資信託を売買取引する際の円貨と外貨の交換レートには、約定代金に応じて当社が決定する為替スプレッドがあります。

【リスクについて】

●<株式、上場ETF、債券のリスク>株式や上場ETFの売買取引については、株価の変動により投資元本を割り込むことがあります。債券は金利水準の変動等により価格が上下し、損失が生じるおそれがあります。外国株式、外国債券及び外貨建て資産に投資する上場ETFは、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により投資元本を割り込むことがあります。
● <為替リスク>外貨建て商品の場合、外貨建てでは投資元本を割り込んでいない場合でも、為替変動あるいは外貨交換の際の為替スプレッドにより、円換算ベースで投資元本を割り込み損失を被る場合があります。
● <上場リートのリスク>リートは、不動産などで運用を行う上場投資法人です。リート市場価格については、金融経済動向、不動産市況、災害(地震、火災等)等の影響を受け変動し損失が生じるおそれがあります。分配金は不動産などからの収入に応じ変動します。金融商品取引所が定める基準に抵触し上場廃止になった場合には、取引が著しく困難になる可能性があります。
● <ファンドのリスク>ファンドは、主に国内外の株式、債券、不動産投資信託証券など値動きのある有価証券等(外貨建て資産には為替リスクもあります)に投資しますので基準価額は大きく変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。また、「毎月分配型」及び「通貨選択型」ファンドの“収益分配金に関する留意事項”及び“通貨選択型投資信託の収益イメージ”は、必ずご確認して頂きたい重要事項となっておりますので、投資信託説明書(交付目論見書)をよくお読みください。

ひろぎん証券

商号等　ひろぎん証券株式会社
金融商品取引業者中国財務局長(金商)第20号
加入協会　日本証券業協会

(帳票J-10-002 企画部2024年4月改正)

本店営業部	〒730-0031 広島市中区紙屋町1-3-8	TEL:082-245-5000	三次支店	〒728-0012 三次市十日市中2-13-26	TEL:0824-62-3121
福山支店	〒720-0812 福山市霞町1-1-1	TEL:084-922-1321	可部支店	〒731-0221 広島市安佐北区可部3-20-21	TEL:082-815-2600
岡山営業所	〒700-0826 岡山市北区磨屋町1-3	TEL:086-222-1561	広島西支店	〒733-0841 広島市西区井口明神1-17-4	TEL:082-277-2700
府中支店	〒726-0004 府中市府川町335-1	TEL:0847-45-8500	東広島支店	〒739-0014 東広島市西条昭和町2-7	TEL:082-422-3621
尾道支店	〒722-0036 尾道市東御所町1-15	TEL:0848-23-8121	廿日市支店	〒738-0024 廿日市市新宮1-9-34	TEL:0829-31-6611
尾道支店今治営業所	〒794-0022 今治市室屋町1-1-13	TEL:0898-55-8280	岩国支店	〒740-0018 岩国市麻里布町2-7-7	TEL:0827-22-3161
			徳山支店	〒745-0034 周南市御幸通2-15	TEL:0834-31-5350
呉支店	〒737-0045 呉市本通3-5-4	TEL:0823-21-6401	徳山支店萩営業所	〒758-0027 萩市吉田町51-11	TEL:0838-25-2121
			宇部支店	〒755-0029 宇部市新天町2-3-3ボスティビル	TEL:0836-31-1105

ネットセンター(インターネット取引)　https://www.hirogin-sec.co.jp

資料作成:株式会社フィスコ
〒107-0062 東京都港区南青山五丁目13番3号